

依リタリースルモ之レカ結果ニ付テハ別段ノ差異ナカリシモノト思考セラルモ只タ茲ニ注意スヘキ点ハ既ニ一九年ノ先例モアルコトナルニ付予メ國務省ノ内意ヲ夫トナク探リ置クノ機会アリシモノトセハ或ハ「ラモント」等ニ於テ借款条件其ノ他ノ点ニ付斯ク迄深入リセサリシ以前ニ於テ本件商議ヲ見合セ所謂名実共ニ Conversation Stage ニ止メ置クヲ得タルヘク從テ仮令今回本借款力成立セサリシトルモ或ハ他日輿論ノ喧シカラサル適當ノ時機ニ於テ手際好ク之ヲ成立セシムルノ望ミアリシヤモ知レス反之現在ノ所國務省側ハ表面本件ニ關シ正式ノ願出ナカリシトテ我方ニ素知ラヌ顔ヲ為シ居ルモ米國銀行側トシテハ滿鉄社債

ニ応募スルハ意外ニ面倒ナル問題ナルコトヲ相当強ク印象セシメラレタルヤノ感ナキニアラス即チ今回ノ頓挫ハ一九年ノ先例ト相並ンテ将来ニ瓦リ滿鉄起債ヲ益々不便ナラシムルト共ニ今後此種提議アリタル場合ハ更ニ先例ヲ引用シ支那側ヲシテ氣勢ヲ擧ケシムルコトナルヤヲ憂フルモノニ有之候尚ホ今期米國議會ノ問題トナルヘキ様察セラル前記外債応募ニ對スル國務省ノ監督問題ニシテ我方ノ有利ニ解決セラルルヲ得ハ此種起債モ容易トナルヘキ様被存候右格別御参考ニモナラサルコトトハ被存候モ當方聞込ノ儘ヲ御耳ニ入レ置キ度ク此段得貴意候 敬具

五 北伐と租界問題

(1) 漢口

258 昭和2年1月4日 在漢口高尾總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

漢口英租界における英中衝突事件について

漢口 1月4日後発 本省

1月5日後着

第五号

ル排英演説ヲ為シタル処付近ニ警戒中ノ英水兵ハ之ヲ中止セシメントシテ遂ニ両者間ニ葛藤ヲ生シ衝突（群衆ハ瓦礫ヲ投シ英兵ハ銃剣ヲ以テ防戦シ發砲セス）ノ結果英國側負傷三名支那側負傷四名（銃剣ヲ以テ刺サレタル二名ハ負傷後死亡シタル旨支那側ハ報道ス）ヲ生スルニ至リ両者暴力ヲ以テ対ス峙ルコト數時間ノ後夜八時頃武漢營派遣ノ軍隊ノ彈圧ニ依リ両者漸ク撤退スルニ至レリ

右衝突事件ハ支那側ニ最好ノロ実ヲ与ヘ治安維持ヲ名トシテ英租界ノ一部ハ既ニ支那軍隊配置セラレ剩ヘ群衆ハ任意ニ租界ノ防御工事ヲ撤去シ動モスレハ通行ノ英國人ニ對シ暴行ヲ加ヘントスル氣勢ヲ示シタルニ依リ英國領事館、工部局、税関其ノ他会社銀行ノ一部ハ本四日正午頃ヨリ門ヲ固ク閉シ門前ニハ武装支那兵警戒シ居ル状態ナリ

在支公使上海へ転電シ南京、九江、長沙、沙市、宜昌、重慶へ暗送セリ

伝等ニ異状ノ氣勢ヲ昂ケタリ偶々三日午後四時頃 英租界（税関前）ニ於テ中央軍政学校宣伝隊カ群衆ニ対シ猛烈ナ

259 昭和2年1月5日 在漢口高尾総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

英陸戦隊の撤退により漢口英租界は中国側に

て治安維持の状況について

漢口 1月5日後発
本省 1月6日後着

第六号
(二五八文書)

往電第五号末段ニ関シ

英國側ハ薄弱ナル兵力ヲ以テ支那側民衆運動ヲ阻止セント
シ遂ニ衝突事件ヲ惹起スルニ至レル失敗ニ鑑ミ四日朝ニ至
ルヤ著ルシク軟化シテ自國ノ陸戦隊及警察隊ヲ撤退シ租界
ノ治安維持ハ挙ヶテ支那官憲ニ一任スヘク強制セラレ右ニ

依リ支那側ハ午後二時自國ノ警察隊ヲ租界内ノ部署ニ就カ
シメ更ニ前日夜一旦引揚ケタル武装兵ヲ派遣シ來リ盛ニ類
込ム群衆ヲ辛フシテ制御シ且ツ同日朝以来無警察ノ状態ト
ナリタル為甚タシク紊乱セル秩序ヲ多少回復シ得タルカ八

時頃ニ至ルヤ支那側ハ更ニ強硬ナル態度ヲ示シ陸戦隊ノ引
揚ト共ニ万一二備フル為召集中ナリシ英國義勇隊ノ解散ヲ
要求シ遂ニ同隊ノ武器弾薬ハ軍艦ニ引取ルヘク余儀ナクセ
ラレ結局英租界ハ同警察所ヲ本部トスル約三百ノ支那武装

兵及二百ノ糾察隊ニ依リ治安ヲ維持シ全ク支那側ニ占領セ
ラレタルノ觀ヲ呈スルニ至レリ
斯ノ如クニシテ本五日ハ街上英國巡捕ノ影ヲ認メス糾察隊
代リテ交通ヲ整理シツツアル有様ニシテ税関ヲ初メ各官衙
及商店等固ク閉鎖セラレ歐米人ノ通行者全ク無ク却テ租界
内排英宣伝熾ニ行ハレ居リ支那街方面ノ反動的氣勢ト共ニ
事態ハ漸ク悪化シツツアルモ同租界居住本邦人ハ何等妨害
ヲ受ケス又我居留地モ至極平穏ナリ

在支公使、九江へ転電シ長江筋へ暗送

260 昭和2年1月(6)日 在中國芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

ケロッゲ声明および漢口英租界問題に関する
マクマレー米国公使との会談報告

北京 1月6日前着
本省 1月6日前着

第一号
※

一月四日米国公使ノ帰国スル事ヲ聞及タルニ付五日同公使
ニ面会ノ上事情ヲ尋ネタル處同公使ハ実ハ自分ハ一昨年上
海事件ノ直後來任シタル次第ナルカ爾來二年半ノ間ニ當國

ノ形勢発展ノ急速ナル事非常ニシテ自分ヨリハ絶ヘス電報
及郵便ニテ報告ヲ為スニ拘ハラス本国政府ニ於テハ尚現状
ノ実情ヲ解セサル憾アリ又自分トシテモ本国政府ノ意向ヲ
解シ兼ル点有リテ先般來本国政府ト往復ノ結果數日前本国
政府ヨリ親シク帰國方申越シ來レルニ付往復約四ヶ月ノ予
定ニテ一時帰國スル事ナレリト語リタルニ付本使ハ「ケ
ロッゲ」等ノ決定ハ誠ニ時宜ニ適スト云フヘク打明ケテ申
セハ近來ノ支那時局ニ付テハ歐米ノ政府ニテ正當ニ諒解ス
ル事非常ニ困難ナリト述ヘタル處同公使ハ其ノ通ナリトテ

漢口ヨリ入手シタル昨晩ノ騒動ニ關スル電報ヲ朗読シ(何
レ漢口總領事ヨリ電報アルヘキニ付内容省略ス)タル上此
ノ種ノ騒動ハ支那全國ニ普及スルノ虞レアリト述ヘタルニ
付本使広東軍ノ管轄外ノ地域ニ於テハ先ツ其ノ心配無カル
ヘク又広東軍ト雖モ労農ノ指揮ノ下ニ非サレハ斯ノ如キ事
無カルヘシ但シ労農ノ援助有ルニ非サレハ広東軍トシテ充
分ノ成功ヲ收メル能ハス又今後モ成功セサルヘシ支那国民
ノ「アスピレーシヨン」ノ發露力支那人自身ノ手ニ依リテ
ノミ行ハルルモノナラハ吾々ハ全幅ノ同情ヲ表スルモ労農
ノ援助ニ依リ發露スルカ如キハ感服セサル處ナリト述ヘタ

261 昭和2年1月6日 在漢口高尾総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

国民政府の漢口英租界治安維持および外国人
の生命財産保護の布告について

漢口 1月6日後発
本省 1月7日後着

第八号
※

国民政府ハ一月五日付陳外交部長ノ名ヲ以テ政府ハ警察及
軍隊ニ對シ英國租界ノ治安及秩序ノ維持並ニ同租界内ノ英
国人其ノ他外国人ノ生命財産ノ保護方ヲ命シタル旨布告セ
リ

北京へ転電シ長江筋へ暗送セリ

262 昭和2年1月7日 在中國芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

漢口英租界事件の原因およびその善後策について

(1) 第二号 (秘)
一月七日來訪ノ節英國公使ハ漢口事件ニ關シ我等ハ揚子江ニ於テ大火災ニ罹リツアリト述ヘタル後此火災ハ何時日本ニ飛火スルヤモ計リ難シト述ヘタルニ付本使ハ親交ノ間柄ナル次第ニモアリ或ハ日本ニ飛火スルヤモ計リ難キコトハ本使モ同感ナリ元来數年前日本カ排日騒ニテ困却シタル際英國初メ各國ノ援助ヲ得ル能ハサリシ次第ナルカ此問題ハ実ハ英支又ハ日支ノ問題ト見做ス能ハスシテ本来列國對支那ノ問題ナルコト本使從來ノ主張ナリ支那人ハ有力ナル後援ヲ有スル場合ニハ極端ナル行動ニ出テ易キ国民性ヲ有ス數年前日本ノ嘗メタル苦キ経験ヲ英國カ目下嘗メツアル次第ナリ而シテ最近ニ於ケル漢口ノ騷動モ直接ノ動機ハ貴公使ノ漢口ニ赴キ陳友仁ト何等カノ協定ヲ遂ケントシタル為農ノ嫉妬ヲ買ヒタルカ因ナリト思ハルト率直ニ述ヘタル處同公使ハ自分モ諒解シ居レリト答ヘタル上実ハ自分

タルニ付本使ハ今後方針ヲ立ツルトセハ差当リ現場ノ狀況ヲ視察シテ善後措置ヲ講スルヨリ致方ナカラント思ハルルカ如何ト述ヘタル處同公使ハ全ク其ノ通ニシテ昨日既ニ「オーメーリー」ニ「タイチマン」ヲ同伴漢口ニ急行セシメタリ同人等ハ土曜日浦口着直ニ軍艦ニテ溯江スルカ故火曜日頃漢口ニ着スル筈ニテ其ノ上ハ現場ノ情景ヲ視察シ善後措置ニ関スル意見ヲ申越ス筈ナリト語レリ
漢口ヘ転電セリ

北京 1月7日 発
本省 1月8日後着

263 昭和2年1月7日 在上海矢田總領事より
整原外務大臣宛 (電報)

漢口英租界回収事件に関するバートン英國總領事の談話について

上海 1月7日後発

本省 1月8日前着

(1) 第二号
漢口事件ニ關シ七日英國總領事ト會見シタル處左記要領ノ談話アリ

(2) 極秘ナルカ英國官憲カ任意租界ヲ支那警察權ニ委ネタルコトニ對シテ「ランプソン」公使ハ全然不満足ニシテ參

ハ英國總領事ニ對シ若シ相手ニシテ支那軍隊ナル場合ニハ致方ナキニ付已ムヲ得ス退却スヘク若シ相手カ「モツブ」ノ場合ニハ決シテ退却スヘカラサル旨訓令シ置キタルニ拘ラス總領事カ居留地ノ警察權ヲ無抵抗ニテ引渡シタルハ真ニ遺憾ナリ

(2) 第二号
蓋シ同總領事ハ「ウイーグ」人物ナルカ故自分ノ訓令ヲ励行スル場合ニハ非常ニ重大ナル局面ヲ生スヘク其ノ場合ニ對スル責任ヲ考ヘタル為ナラント思考スル次第ナルカ何レニシテモ斯ノ如キ大事件ハ數十年來未會有ノコトニシテ今後如何ニ处置スヘキカ自分モ途方ニ暮レ居レリ自分ノ差向ノ意見トシテハ一方ニ於テ穩便ナル手段トシテ支那側ニ対シ居留地ノ治安維持ニ對スル勞ヲ謝シタル上支那巡警ノ撤退ヲ求メ他方ニ於テ若シ支那側ニ於テ之ヲ聞キ入レサル場合ニハ強力ヲ用ユルノ覺悟ヲ要スト思考シ居レリト述ヘタルニ付本使ハ支那側ニ於テ穩健ニ返還スト思考サルルヤト反問シタルニ同公使ハ右ハ頗ル困難ナリト思考スト答ヘタル上唯今漢口碇泊ノ軍艦ニハ百五十人ノ水兵ヲ有スルモ今後ノ方針ハ暫ク別トシ不取敢香港ヨリ巡洋艦二隻ヲ呼寄セ南京ヨリ航行シ得ハ蕪湖辺迄遜江セシメ度キ考ナリト述ヘ

事官ヲ漢口ニ急派シタルコトハ代ツテ同地ノ処理ヲ為サシムル為ナリト信スヘキ理由アリ
尤モ支那側ニ委スニ至リタルハ兵力百四十二過キサリシヲ以テ武力ヲ用フルコトカ事態ヲ極惡ニ導クヘキコトヲ怖レタルニ依ルヘシ
(2) 其後ノ処置ニ就テハ本国政府ノ訓令ニ俟ツノ外ナク右ノ訓令ハ參事官等ノ報告ヲ俟テ發セラルモノト察セラル惟フニ今後ノ処置トシテ租界ノ平和的回復不可能ノ場合ニハ結局武力ニ依ルコトニナルヘキカ

(3) 在漢口英國總領事ハ漢口奥地在留民ニ對シ引揚ヲ命シタリ漢口宜昌九江蕪湖等ノ在留婦女子ハ既ニ上海ニ引揚ケツツアリ

(4) 軍艦「ビインディクチーブ」ハ香港ヨリ上海ヘ寄ラス既ニ南京ニ到着シタルカ「カーライル」其他ハ溯江シ得ル處迄上リ其上ニテ何等手段ヲ講スル筈ナリ

猶卑見ニ依レハ支那側カ一旦「コントロール」セル租界ヲ平和裡ニ英國側ニ返還スルコトナカルヘシト想像セラルニ付今回足手纏ノモノヲ先ツ「クリーヤ」シタルコトハ英國カ訓令次第ニテハ武力ヲ用フルコトヲ予想シタル用意ナ

追テ右会見ノ際英國總領事ハ上海ハ漢口ノ如ク evacuate
スルコト絶対ニ出来ストテ往電ノ第一号ノ件ニ關シ日本ヨリ
千二三百位ノ兵力ヲ出サレタキコトヲ頻ニ希望シ且防備
ハ成ルヘク早キニ及ンテ之ヲ為シ漢口ノ覆轍ヲ踏マサルコト緊要ナル旨力説セリ

六月 漢口 軒雷

264 昭和2年1月7日 在漢口高尾總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

非常の際日本租界の治安維持を中國側に依頼すべき旨意見具申

第一〇号（極秘）

一月五日仏國總領事本官ヲ來訪シ英租界ノ現状ハ言語道断ニシテ憂慮ニ堪ヘサル處右ハ国民政府既定ノ方針ニテ殊更英人ノ神經ヲ刺激シ事態ヲ悪化セシメタルモノト認メラレ此種ノ手段ハ早晚日仏両租界ニモ及ホシ結局租界回収ノ拳ニ出ツルモノト考ヘラルニ付テハ右ニ闕スル貴見並之カ

フ
レ英領事ノ所在スラ分明ナラス過激派分子ノ跋扈ハ今ヤ極
点ニ達シ此等無頼ノ徒ハ所在ニ横行シ我租界ニ対シテモ動
モスレハ喧嘩ヲ売ラムトスルノ挙ニ出テツツアリ仏租界ノ
如キハ既ニ今朝來支那側ヨリ回収ノ要求ニ接シタリトノ謠
言スラ盛ニシテ一般外人間ノ恐慌一方ナラス就テハ本官ハ
此上トモ最善ノ努力ヲ致スヘキモ不取敢左記ノ諸点卑見ト
共ニ申進ムヘキニ依リ至急御詮議ノ上何分ノ儀御電訓ヲ請

〔形勢最悪ノ場合ヲ予想スルニ過激分子が群集ヲ煽動シ何等カノ事端ヲ捉ヘテ租界内ニ殺到シ秩序ヲ攪乱シテ支那軍警ノ出動ヲ余儀ナクセシメ英國同様ノ成行ヲ誘致スヘキコト

廿四

(二)又右様ノ成行ヲ見サル迄モ四囲ノ状況険悪トナリ支那側

ノ二点ナル处〔〕ノ場合武力ヲ用ヒテ抗争セハ忽チ正面衝突トナリ而モ兵力到底及フヘクモアラス（現在当地在伯監ハ

砲艦嵯峨同シク鳥羽ノ二隻ニシテ陸戦隊人員ハ百ニ充タス）去リ乍ラ其為スカ儘（脱ママ）英租界ノ如ク終リニ領事館

第一号

仏總領事に言明について

陳友仁外交部長漢口仮租界回収の意向なしと

265 昭和2年1月7日 在漢口高尾總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

北京、上海、九江へ転電シ長江筋へ暗送セリ

累次ノ御訓令ヲ体シ折角本日造大過ナク難関ヲ突破セル本官トシテハ遺憾至極ナルモ時局ノ趨勢ニ鑑ミ之ヲ大局ヨリ打算セハ一持ノ屈服ハ己ムヲ得スト言セラル

於テハ寧口我ヨリ進ンテ支那側ニ申入レ單ニ道路警察及警備ノ意味ニ於テ支那軍警ヲ租界内ニ入レ一時的弁法ヲ協定スルコト万全ノ策ナルヤニ考フ

ノ建物迄モ占領セラルルカ如キハ國家ノ面目上到底堪ヘキニアラス已ムナク対抗ノ外ナキモ斯クテハ事態益々重大トナリ在留邦人ノ生命保護或ハ望ナキニ至ルヘク斯ノ如キハ本官ノ到底忍ヒ難キ処ナリ

手段ニ出ツル決心ニシテ夫レ迄ハ微弱ナル我兵力ヲ用ヒ勝算ナキ抗争ハ避ケル心算ナリト答ヘタルニ仏國總領事ハ貴説至極御尤モナリ自分モ能フ限り平和的手段ニ依リ善後ス
ヘシト述ヘ引取リタルカ

本付本官ハ国民政府ノ組織分子ハ種々難多ニシテ必スシモ
統一アル計画ニ出テタルモノトハ思ハレス英國ニ対スル反
感ハ近來著名ノ事実ニシテ過激派分子ハ近ク何等カノ具体
の手段ニ出ツヘシトハ何人モ想像シ居タル處ニシテ一月三
日ノ衝突現場ニハ本官偶々通リ合ハセ親シク実況ヲ目撃セ
ル一人ナルカ事ノ起リハ帰スル處英國側カ租界地域外ニ於
ケル常習的排英伝派ニ不必要ノ干渉ヲ試ミ群集ニ乘セラレ
タルモノト見受ケラレ予メ計画セル暴動ナリトハ認メ難キ
モ勢ノ激スル処日仏両租界ニ対シテモ何時如何ナル事變ヲ
生スルヤモ測リ難ク此場合本官トシテハ飽迄從来ノ方針ニ
従ヒ極力平和的手段ニ依リ事態ノ悪化ヲ防ク心算ナルカ万
一力及ハサル時ハ暫ク彼等ノ為スカ儘ニ委セ租界外ノ多数
本那人ヲ安全地帯ニ収容シタル後政府ノ訓令ヲ俟チ最後ノ

(マ) 往電第九号陳友仁(脱) 租界臨時管理委員陳群モ亦同租界ノ治安ヲ乱スモノハ国民党代表事務所ニ於テ処罰スヘキ旨ヲ布告シ英租界ハ名実共ニ支那側ニ回収セラレタル形トナリタル為国民政府ハ更ニ英國ニ次テ仏國及日本租界ヲ回収スヘク既ニ要求ヲ発セリ依テ外国人ハ全部当地ヲ撤退ノ外現在ノ處仮国租界回収ノ考ナシ只租界ノ性質ヨリ考ヘ将来ニ於テハ回収問題モ起リ来ルヘク其ノ場合ニハ喜ンテ討議スヘシ

尚会見ノ内容ハ政府ノ声明トシテ公表セラレ差支ナキ旨ヲ答ヘタル由ナルカ同日夕刻往訪ノ本官ニ対シ同領事ハ甚々安心シタル模様ニテ右顛末ヲ語リタル上更ニ日本租界ニ対シテモ陳ノ意見ハ同一ナルヘキモ此ノ際本官直接陳ト会見シテ如何トノ話有リタレトモ本官ハ体良ク其ノ必要無カルヘキ旨ヲ答ヘ置ケリ

尚陳友仁ハ六日仏國領事ト前後シテ米國居留民代表ノ來訪ヲ求メ国民政府ハ極力外国人ノ生命財産ノ保護ニ当ルヘキヲ以テ外国人ハ決シテ当地ヲ引払フ等ノ輕挙ニ出スルコト

(一) 英租界及税関ノ回収
(二) 英国汽船内地航行禁止
(三) 領事裁判権撤廃
(四) 英租界封鎖及対英総罷工
(五) 対英經濟絶交

(六) 今ヤ民衆運動益々酷烈ヲ極ム四日夜武漢各界団体代表者ハ緊急會議ヲ開キ討議ノ末左ノ通対英要求条件ヲ決定シ之カ交渉ヲ政府ニ請願スル事ニ決議セリ(一)英領事ニ厳重抗議(二)死傷者救恤ト損害賠償(三)加害者ノ引渡シ(四)在泊英艦及防御工事撤廃(五)英政府ノ謝罪(六)英租界内支那人ノ集会結社演説ノ自由(七)巡捕及義勇隊ノ武装解除(八)英租界支那軍警管理

右要求ニ対シ七十二時間内ニ満足ナル回答ナキ場合ハ決意游行

(七) 慘案真相電

〔在漢口高尾總領事より
幣原外務大臣宛（電報）〕

昭和 2 年 1 月 7 日

漢口英租界事件に対する中國側の態度強硬の
状況について

漢口 1 月 7 日後発

本省 1 月 8 日後着

第一四号

※

英租界事件ニ対スル支那側ノ態度ハ甚々強硬ニシテ特別市
党部及總工会等ヲ中心トスル（脱）次ノ条件ヲ英政府ニ提
出ス

〔尚五日市党部主催ノ反英示威大会武漢市民對英委員会主催ノ示威及追悼大会有り略前記同様ノ對英要求条件ヲ決議シテ氣勢ヲ昂ケ次テ示威游行ニ移リタルモ降雨ノ為途中解散ス

目下支那側派遣ノ軍隊一營（約五百）及警官八十名租界ノ治安維持ニ當リ官公署及主要商店ハ支那軍警駐屯シテ保護シ居ル処民衆ハ其ノ間ニ混入シテ之等建物ヲ占領シ居ルノ観有り何者ノ惡戯カ英領事館門側ニハ總工会弁事処工部局ハ武漢碼頭公会弁事處消防隊本部ハ糾察隊本部義勇隊本部ハ警察隊本部海軍本部ハ二三四碼頭公会弁事

處警察署ハ第三特別区等ノ貼札ヲ為シ租界回収運動ノ意ヲ示シ横暴ヲ極メツツアリ

在支公使、上海、九江へ転電シ杭州、蘇州、長江筋へ暗送セリ

セリ

267 昭和2年1月10日

在重慶後藤領事代理より

幣原外務大臣宛(電報)

漢口における英米との共同動作は漢口上流在
留邦人の安否に關わる旨の意見具申

重慶
本省 1月10日前着 発

第二号

近年来四川省ノ排外的風潮頓ニ濃厚ヲ加ヘ排英問題ニ連結シテ動モスレハ日本ヲ其渦中ニ投セントスル氣勢アルモ当地在留民ノ自重ト支那側当局トノ友好的關係ニ依リ兎モ角モ日支間ハ漸次親善ヲ加ヘツツアル現況ナリ然ルニ今次漢口ニ於ケル英租界侵占事件及ヒ九江ニ於ケル排英問題ハ漸次各地ニ波及セントスル傾向ヲ示シ當地英米人ハ既ニ引揚ケノ内命ヲ接受シ江ノ南岸ニ在ル外国人商業會議所前ニ數隻ノ軍艦ト汽船ヲ繫留シ何時ニテモ避難シ得ル準備ヲ完了

然ルニ客年九月閣下発漢口總領事宛電報(大正十五年第一冊上巻二八六文書)第五五号御訓令ニ依レハ租界及ヒ在留民保護上列国共通ノ利害ニ係ハル場合ハ列國ト共同的動作ヲ執ラル御方針ナルヤニ認メラル處若シ漢口方面ニ於テ共同動作ヲ開始セラルニ於テハ尠クトモ漢口上流ニ在ル本邦人ハ極メテ慘メナル苦境ニ陥ルヘキハ略想像ニ難カラサル次第ナレハ此点特ニ御考慮置キ相成度シ万一同動作ニ出テラルカ如キ御見込ナルニ於テハ予メ其旨ノ御内示相仰キ度シ尤モ本官ハ事前ニ支那側当局ト折衝シ間断ナク最善ノ注意ヲ払ヒ以テ本邦人ノ安全ヲ図ルヘキモ蓋シ今次ノ漢口事件カ排英ヲ中心トシ一般的排外ニ化スルトモ日支ノ關係良好ニ傾ケル今日多少ノ犠牲ヲ払フトモ英米ト共同動作ニ出ツルカ如キハ東亞ノ結合上將又日支将来ノ親善上真ニ面白カラサル結果ヲ來スモノト思考セラル右漢口上流ニ於ケル本邦人ノ安危ト現況トニ鑑ミ卑見旁申進ム

北京、漢口へ転電シ沙市、宜昌、成都へ暗送セリ

268 昭和2年1月11日

在漢口高尾總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

漢口在留邦人の保護に尽力すべき旨の陳友仁
談話について

漢口
本省 1月11日後発

1月12日前着

※
第二五号

一月十日本官陳友仁訪問ノ節英租界問題ニ談及シ国民政府ニ於テハ本問題ヲ如何ニ取扱ハルル心算ナリヤ外間ニテハ英租界ノ現状ニ対シ支那ハ既ニ同租界ヲ回収セルモノト言ヒ又一時的管理ナリトモ言フ何レカ真ナリヤト問ヒタルニ

陳ハ本件ハ明日著漢スヘキ英國參事官ト交渉ヲ開始スル心算トテ現状ハ矢張リ一時ノ「コントロール」ニ過キ斯但交渉ノ結果ニ依リ如何ニ変化スルヤモ知レストテ頗ル得意ノ

様子ニ見受ケラレタルカ租界内ノ秩序維持及一般外人ノ保護ニ関シテハ能フ限り尽力スヘク国民政府ノ治下ニ在リテ野蛮の行為ヲ見ルカ如キハ頗ル恥スヘキ事ナリ日本租界ニ

対シテモ何等事端ノ生スヘキ虞ナシト言ヘルニ付本官ハ夫レハ当然ノ事ニテ我等ハ何等ノ危惧ヲ抱キ居ラス唯居留地外各所ニ散在スル邦人ニ対シテハ極力保護ヲ加ヘラレムコトヲ希望スト述ヘタルニ陳ハ誓テ其責ニ任スヘク成ルヘク

て

漢口並上海ノ事態ニ付キ英大使ト

幣原大臣トノ会談要領ニ闕スル件

269 昭和2年1月12日

幣原外務大臣
ティリー英國大使会談

ティリー英國大使漢口英租界回収および上海
租界警備問題等に關しやや樂觀の状況につい

テ
対シテモ何等事端ノ生スヘキ虞ナシト言ヘルニ付本官ハ夫レハ當然ノ事ニテ我等ハ何等ノ危惧ヲ抱キ居ラス唯居留地外各所ニ散在スル邦人ニ対シテハ極力保護ヲ加ヘラレムコトヲ希望スト述ヘタルニ陳ハ誓テ其責ニ任スヘク成ルヘク

タード」スル所以ナリト辞ハリタル上漢口上海等ノ事態ニ
関シ種々談合スル所アリタルカ同大使ノ述フル所並之ニ對
スル幣原大臣ノ應答要領左ノ通

一、漢口ノ事態ニ閑シ英國大使ハ諸般ノ情報ヲ綜合スルニ
同地方ノ状況ハ最初陳友仁等カ大言壯語シタリト伝ヘラ
レタル如ク暴動モナク案外ニ目下平静ニ帰シ現ニ香上銀
行モ開店セル程ナリトテ樂觀的觀察ヲ下シタルニ付大臣
ハ漢口電報ニヨレハ陳友仁ハ高尾ノ間ニ対シ英租界ノ管
理ハ一時的ナリト答ヘシモ内々ハ永久管理ノ底意アリヤ
ニ見受ケラレタリトノコトナリト語リシニ英大使ハ陳等
ト雖モ常識アリ乱リニ無責任ノ言辞ヲ弄シ非常識ノ行動
ヲ執ルヘシトモ思ハレサルニ付英國政府トシテハ坊間種
々取沙汰サルル如ク左程時局ノ逼迫セルモノト認メスト
述ヘタリ

仍テ幣原大臣ハ陳友仁等ハ從来常識ヲ逸シタル行動ニ出
ツルヲ以テ彼等ノ言モ何処迄信頼シ得ヘキヤハ疑ハシキ
處先方ニ於テ英租界ノ管理ヲ此儘統クルカ如キ場合ニ如
何ニ措置スヘキ考ナリヤト反問シタルニ英國大使ハ同國
側トシテハ兎モ角モ「オメリ一」參事官ヲ現場ニ派遣シ
テ英國領事の談話について

態度ナルカ如ク觀察セラレタル趣ナリ

270 昭和2年1月12日 在漢口高尾總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

漢口英租界回収問題に関するゴッフェ英國總

*
第二六号

漢口 本省 発
1月12日前着

貴電第三号ニ閑シ

事件發生以来英國總領事ノ所在不明ナリシ所領事館ニ帰レ
リトノ趣ナレハ一月十一日不敢慰問旁田尻ヲ遣ハシタル
ニ同領事ハ支那側カ事實上同租界ヲ占領セルニ対シテハ自
分ハ從來ノ通り陸戰隊ヲ配置シ秩序ノ維持ニ努メタルモ衝
突後ハ到底少數ノ兵力ニテハ「モップ」ヲ制御シ租界ノ秩序
ヲ保チ難キニ至リシヲ以テ自分ヨリ支那軍隊ノ派遣ヲ請求
シタリ右ハ英國兵力トモナラハ其結果計リ知レサルノミナ
ラス或ハ支那軍隊ヲモ相手トセサルヲ得サル形勢ヲ誘致ス
ヘキ惧アリタルニ依ルモノニシテ其後軍隊カ其儘一時駐在
スルニ至レル事實モ致方ナカリシナリ自分ノ措置振ニ閑シ

支那側ト接觸セシムルコトトナレルヲ以テ右交渉ノ結果
ヲ見ルコトトスヘシト答ヘタリ

二、尚上海ノ形勢ニ就イテハ英國政府ニ於テ万ノ事變ニ
備ヘム力為メ陸戰隊ニ要スル兵員ヲ同地ニ送ルコトトシ
テ是亦樂觀的態度ヲ示シタルカ幣原大臣ハ日本ニ於テモ
協調ノ精神ヲ以テ何時ニテモ千四五五百ノ陸戰隊ヲ上陸セ
シメ得ル様内地ニ於テ準備シ居レルモ距離モ近キニ付今
直ニ現地ニ全部送ルモノニ非スト説明シ且上海ノ形勢ニ
付最近ノ情報ニヨレハ直ニ南軍ノ侵入スル形勢モ見エス
又上海租界内ニモ南軍ノ便服兵一千名位アリ騒擾ヲ起ス
盧アリトノ報道ハアルモ是等ノ蠢動ニ対シテハ現ニ上海
租界ニ在ル警察力ヲ以テ充分ナル可ク今後事態ノ發展如
何ニ依リ南軍ノ侵入起リタリトスルモ各國側ノ協力ニテ
兵力三四千集中ノ計画モ定マレルニ付租界ヲ防禦スルニ
充分ナルヘシト思考スル旨ヲ述ヘタリ

三、要スルニ英國側ニ於テハ漢口並上海ノ事態ニ対シ稍楽
觀シ始メタルカ如ク認メラルト共ニ漢口ノ事態ニ就テ
モ容易ニ武力ニ訴フルコトナク今後交渉ノ成行ヲ見送ル

テハ既ニ本国政府ニ於テ全ク之ヲ承認シ居レル事新聞電報
ノ通り（七日倫敦發ロイテル電報ハ今後當地租界當局ノ措
置ニ閑シ支那軍隊及群集ヲ相手トセス寧ロ軍隊ノ保護ノ下
ニ群集ノ暴行ニ対シ英國人ノ生命財產ヲ保護シタルハ甚タ
賢明ナル手段ナリト半官的ニ伝ヘ居レリ）ナリトテ些カ得
意ノ色アリタルカ然ラハ當面ノ治安維持ノミナラス一般施
政ヲモ支那側ニ委ネタルハ如何ト質問セルニ居留地惶惶ニ
陥リ支那巡查モ全ク無力トナリ且前述ノ如ク無兵力ニ等シ
キ状況ニテハ之トテ勢ノ赴ク所又已ムヲ得ス先方ノナスカ
儘ニ放任セリト述ヘ只市政事務ハ支那側ニ於テモ既ニ持余
シ居ルモノノ如シトテ陳友仁ヨリ該英國人ニ対シ旧租界工
部局ノ復活ヲ希望スル旨内話アリシトノ噂（八日仏國領事
ヨリモ同様ノ話アリタリ）ヲ肯定シタル後但シ今後ハ只今
着漢セル「オメリ一」カ交渉ノ任ニ当ル筈ニテ今ノ處一切
見当付カスト語リ更ニ英國側カ強力ヲ用フトノ説ニ閑シテ
ハ長江沿岸ノ警備ヲ固メ居ルハ事實ナルモ自分トシテハ政
府ニ斯ル意向アリトハ考ヘラレス若シ事實トスルモノ下ノ
如ク減水甚タシキ折柄如何トモ致シ方ナカル可シ勿論実行
スル事モアラハ予メ通告致ス可ク上流方面日本在留民ノ閑

係モ良ク知悉シ居レリト答へ且最後ニ私見トシテ租界ノ返還ハ結局已ムヲ得サル可シト考フルモ未タ具体的意見ナシト洩ラシ其態度モ極メテ平静ニ見受ケラレタル趣ナリ

271 昭和2年1月12日 在漢口外務大臣より
在漢口高尾總領事宛（電報）

漢口租界回収には断乎たる措置実施の決意について

第一〇号 本省 1月12日後発

貴地方現下ノ時局ニ対シテハ帝国政府ニ於テ夙ニ穩忍自重ノ態度ヲ以テ臨ミ来リタル次第ナルモ将来苟モ帝国ノ威信及条約上ノ権利ヲ傷クルカ如キ事態ヲ生シタル場合ニハ嚴然其ノ理非ヲ闡明スルコト機宜ニ適ス可貴地租界ヲ漫然支那側軍隊並警察ニ委棄スルカ如キハ帝国政府ノ倣ヒ難キ所ナルヲ以テ万一国民政府側ニ於テ帝国租界ノ回収ヲ企図スルカ如キ事態ヲ生シタル場合ヲ想像シ之カ具体的対策ヲ講シ置クヲ必要ト認メ本省ニ於テ海軍側ト協議ノ上右ノ場合貴官ノ執ル可キ措置ニ付左記ノ方針ヲ内議中ナリ右ハ未タ閣議ノ決定ヲ経サルモノナルモ貴官含迄特ニ内報スル次

第二シテ確定ノ上其ノ旨更ニ電報スヘク又海軍側ヨリモ遣外艦隊司令官ニ対シ本電ノ趣旨ニヨリ訓令スル筈猶ホ予メ第一ノ場合ニ対スル措置ニ付実地ニ付協議スル為近々軍令部員特派ノ筈ニ付右御含ノ上艦隊側ト充分連絡ヲ執リ機宜ノ措置ニ依リ時局ニ善処セラル様致シ度シ

一、貴地方最近ノ政情ニ鑑ミ日支人間ニ不祥事ノ発生ヲ予防スル為メ貴地方ノ治安維持ニ関シ貴官ニ於テ支那側責任者ト此際特ニ密接ナル連絡ヲ執リ支那側ヲシテ之カ予

防措置ヲ講セシメ萬一支那官民ニ於テ英租界回収ノ経験ニ依リ帝国租界ヲ輕視シ租界ノ諧謐ヲ害スルカ如キ盲動ヲ為ス場合ニハ我方ニ於テハ断乎タル処置ニ出ツルノ決意アルコトヲ国民政府幹部ニ感得セシムルコト

二、貴地方ニ群衆運動起リ帝国租界ノ防備ヲ必要トスル場合ニハ
(1)租界境域路面ノ警戒ハ要スレハ之ヲ支那官憲ニ委シ差支無キモ
(2)我カ租界内ハ専ラ領事館警察及陸戦隊ヲシテ居留民保護ノ任ニ就カシム可ク此ノ場合ニ於テハ警察陸戦隊共居留民保護ヲ唯一ノ目標トシ特ニ婦女子ハ貴官ノ裁量

第五号（極秘） 本省 1月13日後着

ニ依リ安全地ニ移転セシメ租界外ノ暴徒ニ対スル措置ハ支那側責任者ヲシテ之ニ当ラシムルコト
三、支那側責任者カ我カ居留民保護ノ誠意又ハ能力ヲ欠ク力為メ暴徒カ我カ租界内ニ乱入シ事態特ニ之ヲ必要トスル場合ニハ先ツ居留民ヲ帝国軍艦若クハ商船ニ收容ス可ク同時ニ貴地帝国租界外ニ散在スル居留民ヲモ適宜帝国艦船ニ引揚ケシム此ノ場合ニ於テモ我方ハ暴徒ニ対シ成ル可ク対抗的措置ニ出ツルコト無ク努メテ慎重ノ態度ヲ持スルコト
尚其後ノ状況ニ依リ貴館職員（警察ヲ含ム）及陸戦隊ニ於テモ租界ヲ撤退スルノ已ム無キトキハ適宜引揚ケタル上其後ノ処置振リニ付テハ更ニ請訓スルコト
右貴官ノ裁量ニ依リ適當ノ時期ニ重慶、沙市、長沙、宜昌、九江へ転電アリタシ
在支公使及上海へ転電セリ

272 昭和2年1月13日 在南京森岡領事より
在南京高尾總領事宛（電報）

英艦の南京集中の状況について

南京 1月13日後発

273 昭和2年1月13日 在漢口高尾總領事より
在漢口外務大臣宛（電報）
漢口仮租界の保護・警備方針に関する同国総領事の談話について

漢口 1月13日後発
本省 1月14日後着

*第三三号

本官発在支公使宛電報

第三〇号

閣下発大臣宛電報第四四号中段仏国政府ノ訓令ニ関シ

十三日田尻ヲシテ仏國總領事ヲ訪問種々懇談セシメタル處

同領事ハ公使ヨリノ訓令ハ接受セリ但目下ノ處仏國租界ニ
対シ何等差迫レル危險アリトハ考ヘサルモ万ノ場合ニハ
自分トシテハ先ツ支那側ヲシテ租界境界ニ於テ「モップ」
ヲ鎮压セシムルト共ニ租界内ノ警備ハ租界工部局所属支那
巡捕及安南巡捕（実ハ軍隊ナリ）ヲ中心トシ更ニ陸戰隊ヲ
加ヘテ（出来得ル限りハ之ヲ用ヒタクナキモ）之ニ当ラシ
メ事情已ムヲ得サル場合ニハ或ハ支那側ノ助力ヲ請ヒ要ス
レハ平和手段ニ依リ居留民ノ保護ニ當ラシム考ナリ然シ
公使ノ訓令ハ極テ一般的ノモノニシテ万已ムヲ得ス仏国人
ハ租界ヲ引拵ヒテ艦船ニ引移リタル後ニ於テモ猶實力ニ依
リ租界ヲ防守スヘシトノ意味ナリトハ解釈シ居ラス依テ如
何ナル危險カ發生スヘキヤハ全ク未知數ナルカ大体右様ノ

方針ノ下ニ行動スル考ナリト述ヘ更ニ日本側ノ意向ヲ尋ネ
タルヲ以テ田尻ハ予メ本官ノ意ヲ体シ政府ヨリハ未タ何等
ノ訓令ニ接シ居ラス單ニ在支公使カ成ルヘク租界ヲ保持ス
ルコト望マシキ旨ノ意見ナルコトヲ承知シ居ルノミナルカ
日本總領事トシテハ屢次ノ會見ニ於テ申述ヘタル通り租界
外日本人ノ救濟ヲ第一トシ次ニ出来得ル限り租界ノ防備ニ
努ムル考ナリト答ヘ置キタリト

次ニ英租界問題ニ言及シタルニ同領事ハ未タ英國總領事ニ
面会セス從テ交渉力如何ニ成リ行クヘキヤ予想シ難キモ自
分トシテハ英支双方ノ面目モアルコトナレハ此際英國ハ無
条件返還スルコトモ亦支那側カ此儘保持スルコトモ不可能
ナルヘク從テ妥協ノ外ナカルヘキ処或ハ支那側ニ於テ此際
本問題ヲ更ニ一般化シ当地ニ於ケル日英仏三租界及兩特別
区ヲ以テ一團トナシ之ヲ特区ノ（s · d · a）現行制度ノ
如キ暫行取極ノ下ニ國際的行政区域ト為スコトモ一方方法ナ
リトセルヤニ察セラル又英國カ最近当方面ニ軍艦ヲ増派シ
ツツアル真意ハ英支交渉ノ結果ニ就キ支那側カ不満ヲ抱キ
何等暴行ヲ繰返スコトアルヘキヲ怖レタルニ依ルモノニテ
強力ヲ以テ租界ヲ奪回スル意ニアラサルヘシト述ヘタル趣

ナリ

大臣へ転電セリ

274 昭和2年1月14日 整原外務大臣より

在漢口高尾總領事宛（電報）

漢口地方時局対策に關し閣議決定について

付記 一月十四日付高裁案

〔漢口帝国租界に關する件〕

（付記）
漢口帝国租界ニ關スル件
高裁案
(一月十四日)

第一四号（極秘）
（三七文書）
往電第一〇号ニ関シ

本省及海軍側ニ於テ内議中ナリシ同電内報ノ各項ハ左記二

項ヲ追加シタル上閣議決定ヲ経タリ

右ノ如キ状況ニ立チ到リタルトキハ帝国政府ニ於テハ

一、上流諸地方駐在領事ニ命シ居留民ノ即時引揚ヲ為サ
シメ尚時宜ニ依リテハ下流各地ノ居留民保護方ニ付夫
々措置ヲ為スコト

二、帝國海軍ニ於テモ必要ニ応シ相當兵力ヲ例へハ上海

方面ニ増勢スルコト

上海及北京ニ転電セリ

ト

二、同地方ニ群衆運動起リ帝国租界ノ防衛ヲ必要トスル場合ニハ

支ナキモ

(イ)租界地域路面ノ警戒ハ要スレハ之ヲ支那官憲ニ委シ差

護ノ任ニ就カシム可ク此場合ニ於テハ警察陸戦隊共居

留民保護ヲ唯一ノ目標トシ特ニ婦女子ハ領事ノ裁量ニ

依リ安全地ニ移転セシム租界外ノ暴徒ニ対シテハ支那

側責任者ニ委任スルコト

三、支那側責任者カ我カ居留民保護ノ誠意又ハ能力ヲ欠ク

カ為メ暴徒カ我租界内ニ乱入シ事態特ニ之ヲ必要トスル

場合ニハ先ソ居留民ヲ帝国軍艦若クハ商船ニ収容ス可ク

同時ニ漢口地方ノ帝国租界外ニ散在スル居留民ヲモ適宜

帝国艦船ニ引揚ケシム此場合ニ於テモ我方ハ暴徒ニ対シ

可成対抗的措置ニ出ツルコト無ク努メテ慎重ノ態度ヲ持

尚其後ノ状況ニ依リ領事館（警察ヲ含ム）職員及陸戦隊

ニ於テモ租界ヲ撤退スルノ已ム無キトキハ適宜引揚ケタ

ル上其後ノ処置振リニ付テハ更ニ請訓スルコト

右ノ如キ状況ニ立チ到リタルトキハ帝国政府ニ於テハ
一、上流諸地方駐在領事ニ命シ居留民ノ即時引揚ヲ為サシ
メ尚時宜ニ依リテハ下流各地ノ居留民保護方ニ付夫々措
置ヲ為スコト
二、帝国海軍ニ於テモ必要ニ応シ相当ノ兵力ヲ例ヘハ上海
方面ニ増勢スルコト
右仰高裁

275 昭和2年1月14日

〔幣原外務大臣より
在米國松平大使宛（電報）〕

漢口日本租界防衛に関する閣議決定について

合第一号

本省 1月14日後発

往電合第四号ニ閏シ

漢口地方ノ事態ニ對シテハ帝国政府ニ於テ從来隱忍自重ノ
態度ヲ以テ臨ミ來レルモ将来苟モ帝国ノ威信及條約上ノ權
利ヲ傷クルカ如キ事態例ヘハ國民軍側ニ於テ暴力ヲ以テ帝
国租界ノ回収ヲ企図スルカ如キ万一最悪ノ場合ヲ想像シ
之カ具体的対策ヲ講究シタル結果先ツ在漢口總領事ヲシテ

ニ基キ機宜ノ処置ニ依リ時局ニ善處セシムルコトセリ

276 昭和2年1月14日

〔幣原外務大臣宛（電報）〕

漢口英租界問題の善後策に関する英國公使との会談について

同地方ニ我租界ノ防備ヲ必要トスル群衆運動起リタル場合
ノ措置トシテハ租界地域路面ノ警戒ハ要スレハ支那官憲ニ

委シ差支無キモ租界内居留民ノ保護ハ領事館警察及陸戦隊

専ラニ任シ租界外ノ暴徒ニ対スル措置ハ支那側責任者ヲ
シテ之ニ当ラシム可ク更ニ暴徒カ租界内ニ乱入シ事態特ニ

之ヲ必要トスル場合ニハ租界内外ノ居留民ヲ適宜帝国艦船
ニ収容シ暴徒ニ対シテハ成ル可ク対抗的措置ニ出ツルヲ避

ケシム可ク其後ノ状況ニ依リ領事館員及陸戦隊ニ於テ租界
撤退ノ已ム無キニ至リタルトキハ適宜引揚ケタル上其後ノ

措置振リニ付更ニ請訓セシムルコトトシ右ノ如キ事態ニ立

到リタルトキハ上流及下流諸地方ノ駐在領事ニモ夫々居留

民保護ノ途ヲ講セシムルト共ニ帝国海軍ヲシテ必要ニ応シ
相当ノ兵力ヲ例ヘハ上海方面ニ増勢セシムルコトニ閣議決

定シタルヲ以テ直チニ漢口及関係各地領事ニ電訓シ右方針
思考スル旨述ヘタル処同公使ハ其ノ通ナリト答ヘタルニ付

本使ハ更ニ国民政府カ租界取戻ニ応セサル場合ニハ如何ニ

セラル可キヤト尋ネタル處同公使ハ之ハ問題ナリ自分一個ノ意見ニテハ其ノ場合ニ対シテハ二案アリ一ハ租界警察權ノ一部ヲ支那側ニ譲リテ彼我双方妥協スルコトナルカ之ハ勿論不名譽ニテ面白カラス他ノ一案ハ此儘暫ク事態ノ推移ヲ見ルコトナリ自分ノ得タル情報ニ依レハ国民政府ハ租界ヲ取リタルモ支那側ノ行政ノ下ニハ外國居留民帰参セス之力為商業杜絶シ付加税ノ收入モ乏シ且内々租界ノ返還ヲ希望シ居レリトノコトナリト語リタリ

漢口へ転電セリ

相ハ本使ノ質問ニ対シ廣東ノ事態ハ多少良クナリタルモ格別改善スル處ナシト答ヘ最後ニ覚書ニ付種々弁護ヲ試ミ右ハ支那ノ事態ノ何時迄モ放置シ置クノ不得策ナルニ鑑ミ自分ヨリ先ツ一案ヲ提出シ若シ其不可ナルニ於テハ代案ノ提出ヲ促ス迄ノ趣旨ニテ何等カ各國ニテ共同ノ方針ヲ定メ度キ考ヨリ出テタルモノナリ將又自分ハ決シテ南方政府ヲ承認スルノ意アルニ非ス「オメリ」ノ漢口行モ本件承認ニハ關係ナク唯タ一ノ modus vivendi ヲ案出スルカ主タル目的ナリト云ヒタリ

278 昭和2年1月17日

在中國芳沢公使宛（電報）

漢口英租界問題の善後策に関する松井大使の

チエンバレン英国外相との会談について

※ 第四二号
在英大使發本大臣宛電報第一〇号要領
本省 1月17日発
幣原外務大臣より
在中國芳沢公使宛（電報）

十三日本使英外相ヲ往訪シ先本使ヨリ前回会談ノ時ヨリ支那ノ時局ハ益々悪化シ漢口今日ノ事態ヲ生スルニ至リタル次第ナルカ昨日閣議開催サレタル趣ナル處此ノ先如何ナル

北京 1月18日後發
本省 1月18日後着

漢口英租界問題および日本租界の防備対策等

に關し英國公使と會見について

第八五号（極秘）

一月十七日英國公使ニ會見シタル处在漢口「オメリ」ヨリ先刻電報ニ接シタルカ陳友仁ハ英國租界ヲ露國租界独逸租界ト一樣ニ特別区ニ編入シタシト提議シタル趣ニテ十八

措置ニ出テントスルヤト尋ネタル處外相ハ上海カ漢口ノ二ノ舞ヲ演スルハ忍ヒサル處ナルカ現場ニ於ケル海兵義勇兵ノミニテハ到底間ニ合ハスト考へ居レリト述へ尚差当リノ問題トシテハ「オメリ」ノ漢口行ナルカ右ハ無論租界取戻シノ目的ニシテ目下其ノ報告ヲ待チ居ル處ナルカ未タ回答ナシ尤モ取戻シト云フモ再ヒ軍艦兵力ヲ使用シ力ヲ以テ奪回スルカ如キハ全然感心セサル所ナリト云ヒタリ次テ本使ハ漢口事件後英米ノ話合ノ有無及覚書ニ付スル米国回答ノ接受如何ヲ問ヒタルニ外相ハ目下ノ漢口問題ニ付テハ何等話合セス覚書ニ付テハ在米英大使ヲシテ國務卿ト談セシメタルモ米国ハ現在「ニカラグア」「墨西哥」中米問題ニ忙殺セラレ最近支那時局ノ変転ニ鑑ミ「マクマレ」ヲ召還シ意見ヲ徵スルト共ニ「マ」ニ於テモ親シク政府へ報告ノ為帰國スルモノラシク旁米国回答ニ付テハ何等聞ク處ナシト答ヘ本使カ更ニ最近諸新聞カ「ソビエト」ノ策動ヲ重大視シ「ソ」代表者ヲ英國ヨリ驅逐スヘシト論シ居ル處右ハ何等政府ニ於テ考へ居ル處ナリヤト質シタルニ對シテハ右ノ論ハ充分理由アリスヘテ斯ル事ハ何時起ルヤ知レサルモ現在ノ處サル考ヲ決定シ居ラスト述ヘタリ尚外

日更ニ会合ノ筈ニ付其ノ節迄ニ何分ノ訓令ヲ請フ旨申越シ来リタルモ右來電ハ漢口ヨリ当地迄三日間ヲ費シタリ（往電第六四号参照）且右ニ付テハ自分ヨリ意見ヲ添ヘ本国政府ニ請訓ノ上漢口ニ回訓スヘキ次第ナルカ故明日ノ会合ニハ何等「コンミット」スヘカラサル旨不敢米國公使館ヘ懇請シテ同公使館ノ無線電信ニテ電訓シ置キタルカ自分ノ意見ヲ作ルニ当リ重大ノ關係アル日本本租界ノ防備ニ関スル日本側ノ準備ヲ承知シタシト述ヘタルニ付本使ハ未タ政府ノ確定議ニハ非サルモ我方トシテハ租界ノ境界線ニ於ケル警察ハ支那側ニ委ネ租界内ノ警察ハ我方ニ於テ之ヲ保持シ危険切迫スル場合ニハ婦人子供ヲ軍艦又ハ商船ニ移シ而シテ出来得ル丈防備ノ方法ヲ講スル（次）殘留者ニ対シ更ニ一層危険ノ切迫スルカ如キ場合ニハ勿論引揚ヶテ差支ナキ諒解ト心得居レリト述ヘタル處英國公使ハ英國側ニ於テ陳ノ提議ヲ容ルル事ハ全ク屈辱的ナルカ故拒絕スルヨリ致方ナシト思ハルル次第ナルカ

「オメリ」ノ電報ニ依レハ目下英國租界内ニハ何等支那側ノ警備無キ趣ニテ英國側ノ兵力若ハ警察力ヲ以テ之ヲ取返ス事ハ極メテ容易ノ業ナリトノ事ナルカ陳ノ提議ヲ拒絶

昭和2年1月19日

在中國芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

漢口英租界問題交渉に関する英公使の談話に

シテ而モ陳ニ於テ快ク租界ヲ還付セサル場合ニハ強力ヲ以テ回収スル事トナルヘキモ其ノ場合ニハ第一又々騒擾ヲ醸シ其ノ結果鮮血ヲ流スニ至ルカ第二夫レ迄ニ至ラサルトルモ国民政府側ヲシテ敵意ヲ有セシムル事トナルヘキカ故ニ自分トシテ強力ヲ以テ租界ヲ回収スルカ若ハ目下尚残留セル英國居留民全部ヲ漢口ヨリ引揚ケ暫ラク形勢ノ推移ヲ観望スルカ二者其ノ一ヲ選フヨリ致方ナシト思考セラル處自分ハ只今本国政府ニ稟申スヘキ意見ヲ考量中ナルカ貴公使ニ於テ名案ナキヤ腹蔵ナキ御意見ヲ承リタシト申出テタルニ付本使ハ本問題ハ問題其自身既ニ非常ニ重大ナル上其ノ處理如何ニ依リ各方面ニ對スル影響極メテ大ナルモノ有リ篤ト考量ノ上ニ非サレハ勿論確タル意見ヲ述ヘ兼ヌル次第ナルモ一応只今ノ御説明ニ依リ判断スルニ陳提議ニ応スル能ハス而モ強力ヲ以テ租界ヲ取戻ス事能ハストスレハ先ツ居留民ヲ引揚ケルノ措置ニ出スルヨリ致方無キヤニ見受ケラルト答ヘタル処同公使ハ頗ル苦惱ノ色ヲ表ハシ居タリ

漢口へ転電セリ

シテ而モ陳ニ於テ快ク租界ヲ還付セサル場合ニハ強力ヲ以テ回収スル事トナルヘキモ其ノ場合ニハ第一又々騒擾ヲ醸シ其ノ結果鮮血ヲ流スニ至ルカ第二夫レ迄ニ至ラサルトルモ陳友仁ノ妥協案ニ同意方電訓シ來リタルニ付自分ハ直チシテ而モ陳ニ於テ快ク租界ヲ還付セサル場合ニハ強力ヲ以テ回収スル事トナルヘキモ其ノ場合ニハ第一又々騒擾ヲ醸シ其ノ結果鮮血ヲ流スニ至ルカ第二夫レ迄ニ至ラサルトルモ陳友仁ノ妥協案ニ同意方電訓シ來リタルニ付自分ハ直チ

279 昭和2年1月18日 在漢口高尾總領事より
在漢口日・仏租界の保護および現状維持に關
し陳友仁言明について

漢口 1月18日後発
本省 1月19日後着

※第四号

英租界問題ニ關シ往電第三七号中不取敢黃鄂ノ談ヲ申進置キタル處本十八日本官他用ヲ以テ陳友仁訪問ノ際陳ノ直話要領左ノ通り

「オメリ」トハ十二日一度会見セルノミナルカ相互ニ意見ノ交換ノ結果国民政府トシテハ同租界ニ付テハ三日以来既ニ新ナル狀態發生シ居ルヲ以テ此 *status quo* ヲ基礎トシテ交渉シタキ意向ナリト述ヘタルニ「オ」ハ自分ノ接受セル本国政府ノ訓令ニ依レハ事件突發以前ノ「ステータス」ノ上ニ立チ抗議スヘントアル旨ヲ主張シ結局抗議ノ余地ナキコト明トナリタルニ依リ「オ」ヨリ更ニ政府ニ請訓スルコトシ別レタリ本日「オ」來訪ノ約束ナレハ其上ニテ英本国ノ意向明瞭ニナルコト思ハル元来英租界回収ハ国民政府ノ意向ナルノミナラス民衆ノ等シク希望スル處ニシテ

北京 1月19日後発

本省 1月20日前着

第一〇一号 (極秘)
(二七八文書)
往電第八五号ニ關シ

英國公使ハ往電第九九号ノ談ヲ為シタルニ付本使ハ右ハ重大問題ナルカ本問題ニ關シ意見ヲ定ムルカ為ニハ先ツ以テ漢口事件ニ關シ其後貴公使ト本国政府トノ往復ノ發展ヲ承知スルコト必要ナリト述ヘタル処同公使ハ右ニ付テハ陳友仁ノ提議ヲ承諾スルコトハ余リニ屈辱的ニシテ到底考慮ノ余地ナクサレハトテ強力ヲ以テ居留地ヲ取還ス場合ニハ過日ノ暴動ヲ再演スルヤモ計リ難ク旁々英國トシテハ居留地ヨリ手ヲ引キ残留英國民ニ對シテハ夫々自己ノ裁量ニ依リ殘留又ハ引揚ケ方ヲ申渡シ以テ今後ノ時局發展ヲ觀望スルコトト為ス方現下ノ方法ト認メラル旨意見ヲ電報シタリ然ルニ之ト行違ヒニ本国政府ヨリ「オメリ」ト自分ニ対シ陳友仁ノ妥協案ニ同意方電訓シ來リタルニ付自分ハ直チニ引返ヘシ自分ノ電報ヲ熟読ノ上再考ヲ望ム旨返電シタルト同時ニ「オメリ」ニ対シ本国政府ノ電訓執行見合セ方

電報セリト述ヘタルヲ以テ本使ハ貴公使ノ意見ハ一昨日本使ヨリ奨励シタル意見ト同一ナルヤト尋ネタル処然リト答ヘタリ

281 昭和2年1月20日

在漢口高尾總領事宛（電報）

漢口事態対策について

本省 1月20日後発

第一九号

貴電第三七号ニ閲シ

同電（軍艦及陸戦隊増派準備ノ件ハ上海ヲシテ転電セシメタル本大臣発上海宛往電第八号ニテ御承知ノ通リ）萬一上海地方事態ノ急変スルコトアル場合ニ之ニ備フル為メノ準備措置ニ過キシテ今直チニ上海又ハ其ノ以外ノ長江筋各地ニ増派スルノ趣旨ニ非ス固ヨリ貴地其他長江筋各地ニ於ケル事態切迫ノ場合必要ニ応シ右兵力中ヨリ分派スルコトハアル可キモ右軍艦等増派準備ハ差当リ上海方面ニ對スル措置ナルニ付右ニ御承知相成度ク

尙前記貴電後段共同動作云々ニ閲シ往電第一〇号及第四四号ハ國民軍カ貴地帝国租界ニ對シ英租界回収ニ用ヒタルト

同様ノ暴力手段ヲ執ルニ至レルカ如キ万一旦最悪ノ場合ヲ仮想シ専ラ我カ居留民保護ヲ眼目トシテ事態ノ推移ニ応シ不祥事件ノ予防措置ヨリ居留民引揚三至ル経過ニ於テ貴官ノ執ル可キ措置振ニ付申進シタル迄ニシテ貴地ニ於ケル各國側トノ共同動作ハ往電第一〇号ノ趣旨ニ非ス為念

北京及上海ニ転電アリタシ

282 昭和2年1月21日

在漢口高尾總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

漢口英租界問題善後策に関する英総領事の談話について

本省 1月21日後発

第五三号

二十一日英國總領事カ田尻ニ為セル談ヲ総合スルニ大要左ノ通り

「オメリリー」ハ昨夜本国政府ノ訓令ニ接シタルカ相当自由ナル權能ヲ与ヘラレシニ依リ陳友仁ト正式交渉ヲ開始スル筈ナリ自分ハ革命軍入漢後租界問題ニ閲シ支那側ハ決シテ正式ニ回収ヲ要セス種々ノ事端ヲ惹起シテ租界ノ警衛ヲ困

難ナラシメ結局近キ将来ニ於テ英國側ヨリ返還スルノ已ムヲ得サルニ至ラシムヘシトノ意見ヲ政府ニ上申シタル事アリ仏國側モ此点ニ閲シテハ最近同租界内ニ頻々トシテ起ル煩瑣ナル事件ニ顧ミ同意見ヲ洩シ居レリ英本国ノ輿論ハ如何ニモ強硬ナルモ夫ハ當方面ノ事情ニ通セサル為ニシテ政府トシテハ飽迄租界ヲ事件発生前ノ狀態ニ恢復スヘキ方針ニ非サルモノノ如ク從テ右訓令ハ斯ノ如キ強硬ナルモノナラス亦当地ノ狀況ニ鑑ミルモ今後英國側カ從来ノ通り警察権ヲ行使スル事甚々困難ナルヘキヲ以テ仮令支那側ヨリ租界ヲ元ノ儘當方ニ引渡スト伸出アルモ之ヲ引受クヘキヤ否ヤハ熟考ヲ要スル問題ナリト考ヘラル工部局側ノ意見モ同様ニ居留民中ニハ兵力ヲ駐屯セシメ租界ノ秩序ヲ維持ス

ヘシト云フカ如キ強硬論ヲ「オ」ニ伸出テタルモノアルモ斯ノ如キ手段ハ結局事件統発ヲ招クニ過キス當地右租界ヲ通シテ外支共同管理トナスノ案ハ陳友仁カ問接ニ「オ」ニ

283 昭和2年1月22日 在中国芳沢公使より

幣原外務大臣宛（電報）

陳友仁に対する六項目の提議に関する英國公使の意向について

北京 本省 1月22日發

第一一二〇号
⁽¹⁾往電〔七八〇文書〕第一〇号ニ閲シ

倫敦「ルーター」電報ニ英國政府ノ一般政策ナルモノノ片鱗トモ見ルヘキ点現レタルニ付一月二十一日（貴電第五三号接到前）英國公使ヲ訪問シ「ルーター」電報ヲ示シ英國政府ノ漢口事件ニ閲スル確定訓令ニ接シタルヤト尋ネタルスルモ労働争議ノ發生ハ結局防遏スル事難カルヘシ從テ同

處同公使ハ然リト答へ同政府ハ漢口九江ノ居留地問題ハ小問題ニテ大問題ノ一部ニ付最初ノ訓令通り進行スヘシト電訓シ来レルニ付自分ヨリ「オメリ」ニ對華府條約調印国並ニ北京政府ニ通告ノ都合アルニ付陳友仁ト交渉開始ノ上ハ直ニ電報方電報シ置キタル次第ナリトテ貴電第五三号英國政府ノ提案ヲ説明シタルニ付本使ハ先ツ英國政府提案ノ各項目ニ対シ意見ヲ交換シタル後本使ノ了解シ難キハ英國政府カ陳ヨリ英國租界ノ特別区ニ編入ノ提議ヲ受ケ之ニ同意ヲ与ヘタル上更ニ六項目ノ讓歩ヲ提議スルコトニシテ陳トノ間ニ英國租界問題ヲ解決スル以上漢口事件ハ終了スルモノニ非スヤト述ヘタル処

(2) 同公使ハ漢口事件ハ終了スルモ更ニ一般国交恢復ノ見地ヨリ之ヲ提議スル次第ナリト答ヘタルニ付本使ハ右六項目ハ非常ニ重大ナル提案ニシテ英國ニシテ之ヲ提議スル場合吾人モ亦対支政策ニ於テハ右六項目ノ提出ニ依リテ全然国交ヲ恢復シ得ヘキモノト見做スヤト尋ねタル処同公使ハ実ハ自分ヨリ意見ヲ上申スル處アリシモ一向採用サレサリシ次第ニテ六項提出ノ結果ニ付テハ自分モ確信ナシト答ヘタルニ付本使ハ更ニ政府トシテ一部英國政府ノ心中ヲ諒解シ難ナリト述ヘタリ

284 昭和2年1月23日 在漢口高尾總領事より
幣原外務大臣宛(電報)
漢口英租界問題交渉再開に関する陳友仁の談話について

漢口 1月23日後発
本省 1月24日後着

第五七号

英租界問題ニ關シ
一月二十二日陳友仁ノ談ニ依レハ昨二十一日「オメリ」ト交渉再開シタルニ第一ノ問題ハ相互ノ本面論ニシテ自分トシテハ何等英國ヲ「ヒューミリエイト」スル如キ解決方法ヲ執ルコトニハ不贊成ナリ依テ英國ノ兵力増派モ亦其ノ本面ヲ保持セントスル一手段ニ過キスト考ヘラルモ愚策第二ハ租界「コントロール」ノ問題ナルカ英國政府ハ支那側ノ「コントロール」ニ委スコトニ付異議ナキモノノ如ク漸次其ノ具体的方法ヲ討議シ得ル見込ナリ元來今次ノ事

キ事ハ即チ陳ニシテ英國ノ提案ヲ容レサル場合上海及ヒ廣東ニ於テ南方政府ニ抵抗スト言フモ漢口英國租界ノ特別地区編入ノ外六項ノ提議ヲナシ尚拒絶サレタル場合ニハ單ニ廣東及上海ニ於テノミナラス南方管轄ノ下ニアル何レノ地方ニ於テモ抵抗シ得ヘキニアラスヤト尋ねタル處揚子江流域ハ目下水深浅クシテ抵抗ニ便ナラス結局上海及廣東ノミトナル証ナリト弁明シタリ

次ニ本使ハ第六項ハ税関収入ニ対スル「コントロール」ヲ漸進的ニ放棄セントスルモノノナル処現在ノ総稅務司制度ヲ廢棄スルノ意思ヲ含ムヤ否ヤト尋ねタル處右ハ含マレスト答ヘタリ本使ハ更ニ第二項及第三項ノ趣意ハ了解シ難シ英國法廷ニ於テ間モナク支那ノ民事商事ニ關スル法律ヲ英國臣民ニ適用シ又将来刑事法ヲモ英國法廷ニ於テ適用セントスルノ趣意ハ了解シ難シ民刑事一切ノ法律ヲ英國法廷ニ於テ適用セントスルモノナラハ寧ロ英國法廷ヲ廢止スヘキモノニ非スヤト述ヘタル處英國公使ハ英國政府ハ斯ノ如ク決シタルモノナリト答フルノミニテ要領ヲ得ス(尚貴電ニハChinese Native Law トアルモ英國公使館來電ニハ Chinese Nationality Law トアリ)英國公使ハ更ニ「オメリ

尚当地各租界ヲ通シ外支共同管理説若ハ同様ノ話ハアリタルモ双方ヨリ何等正式ニ提議シタルコトナシ自分トシテハ右ハ實際上第二ノ上海共同租界ヲ實現スル結果ヲ招ク虞アリ思考スルニ依リ反対ナリ租界ハ完全ニ當方ニ回収スル意思ナシ
キモ其際ハ勿論平和的交渉ニ依ル方針ナリ尚上海方面ニ兵力集中セラレツツアルカ右ハ恐ラク英國カ主動者ナルヘシ未タ事件発生セサル同地方ニ於ケル本面論モ一応尤ナレトモ無用兵力ノ集中ハ却テ支那側ノ反感ヲ買フニ過キス国民政府ハ目下金策ニ窮シ居ル關係モアリ上海ノ經濟的活動ヲ「バラライズ」スル考ハ全然ナシ從テ租界ヲ襲撃スルカ如キハ夢想タニセス但シ英國人ハ依然相当恐怖ニ捉ハレ居ルカ故ニ或ハ先方ヨリ又々事端ヲ釀シ第二ノ漢口英租界事件ヲ繰返スニ非スヤトノ懸念ヲ抱カシムルハ遺憾至極ナリ云々

漢口英租界問題に対する英國側提案に關し
英
國總領事談話について

天津 本省 1月27日前着 発
往電第一号ニ閲シ

第一二号

英國總領事ハ往訪セル岡本ニ對シ英國ハ漢口ニ於テ南方政府ヨリ租界ノ遮断英貨ノ排斥ヲ以テ脅威サレタル為自衛上已ムヲ得ス過日南方ニ對シ一提案ヲ為シタルカ既ニ南方ニ提議セル以上北方ニ對シテモ同様ノ提案ヲ為ササルヲ得スト思料ス右ニ閲シ先ツ日仏伊三国政府ノ同意ヲ求メ居ル次第ナルカ提案要旨ハ租界制度ノ変改ニアリ即チ租界警察ヲ支那警察ニ合併シ且支那人ハ勿論在留英人ヲシテ「レギュラーキゼーション」ニ復セシメントスルニアルモ租界其物ハ之ヲ留保シ度趣旨ナリト述ヘタル由ナリ

尚英國領事館ニ於テ落合ヒタル北京天津「タイムス」主筆「ウッドレッド」ハ岡本ニ對シ日本ハ英國大使ノ提議懇請ヲ拒否シタルニ非スヤ既ニ日英共同動作ヲ期待シ得ストセ

ハ英國今次ノ行動ノ如キ又已ムヲ得サルニ非スマト語レル趣ナリ

シ居ル一方英國ハ租界ヲ放棄セントスルモノニ非スト称モ中々盛ニシテ現ニ主ナル英國人ハ往電第一号会合ヲ催シ放棄ニ絶対反対ノ一派ト条件付放棄ニ賛成スル一派トハ意見遂ニ一致ヲ見ルニ至ラス何レモ其意見ヲ北京公使館ニ進達スル事トナリタリトノ報道アリ其ノ他米國領事館方面ニ於テハ英國ハ刑事案件ニ關スル領事裁判權ヲ留保スル外総テノ治外法權(各地租界ノ放棄民事裁判權ノ放棄等)ヲ撤去スル基礎ニ於テ既ニ南方ト協議シ又北方トモ商議ヲ開始セントスルモノト解シ居レルカ如シ

右租界放棄等ノ説ハ或ハ日本方面ノ「コオペレーション」ヲ得ンカ為ノ芝居ナルヤモ知レサルノミナラス既ニ委曲御承知ノ事ト存スルモ為念電報ス

右租界放棄等ノ説ハ或ハ日本方面ノ「コオペレーション」ヲ得ンカ為ノ芝居ナルヤモ知レサルノミナラス既ニ委曲御承知ノ事ト存スルモ為念電報ス

在支公使、上海、漢口へ転電セリ

286 昭和2年1月30日 在漢口高尾總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

漢口英租界問題に関する英國側提案につき陳
友仁内示について

漢口 1月30日後発
本省 1月31日前着

第七五号

一月二十九日本官ハ英租界問題ニ閲シ陳友仁ヲ訪問シタル

ニ陳ハ二十七日「オメリ」ヨリ斯ノ如キ提案ニ接シタリ

トテ右提案ノ公文ヲ本官ニ内示シタルカ其内容ハ国民政府側カ漢口及九江租界事件ヲ解決シタル後ハ各地ニ於ケル居留地(共同租界ヲモ含ム)ノ「ステータス」ヲ平和的交渉ヲ以テノミ変更スヘシトノ保障ヲ与フルヲ条件トシテ英國

政府ハ下記ノ如キ提案ヲ為サムトストノ前文ニ次テ大体大臣發在支公使宛往電第五三号各項ヲ列記シ(但全部七項ニシテ海關問題ニ閲シテハ何等言及スル処ナシ)タルモノナ

リシカ陳ハ之ニ対シ本二十九日回答ヲ與ヘタリ(隣室ニハ「オ」モ未タ会談中ナリキ)且右ノ回答ハ英國労働党ニ宛テ電報スル考ナリトテ本官ニ示シタル写ニ依レハ大要英國側ノ新提案ハ決シテ満足スヘキモノニアラサルモ(何レノ租界及共同居留地ノ「ステータス」ニ就キテモ之ヲ変更セ

ハ英國今次ノ行動ノ如キ又已ムヲ得サルニ非スマト語レル趣ナリ

尚上海防備問題ニ閲シ陳ハ日本ハ共同出兵ニ閲スル英國ノ提議ヲ拒絶シタル由ナルカ事實ナリヤト尋ネタルニ付本件ニハ外務大臣カ在本邦英國大使ニ對シ上海防備ハ居留民ノ生命財産ノ保護ヲ根本方針トスヘク未タ實現性ニ乏シキ架空

ノ時代ヲ予想シ租界防備ノ為支那ニ対スル出兵ヲ約スル能

ハスト答ヘタルハ事実ニシテ且英國ノ有力ナル新聞ハ總テ

政府ノ^(マ)方針ニ贊同シ居ルコト及日本ノ輿論ハ国民政府力

決シテ上海ヲ兵力ヲ以テ襲撃スルコトナキヲ信シ居ル旨ヲ

述ヘタルニ陳ハ上海ハ重要ナル財源地ナリ自分ハ此所ニ貴

官ニ対シ正式ニ決シテスルコトナキヲ繰返ヘシ声明スヘシ

但シ悲ムヘキハ英國ノ態度ニシテ上海市街ノ重大ナル軍事

的地点ヲ占領スルカ如キコトアラハ如何ナル動機ニテ不祥

事発生セストモ限ラレス幸ニシテ日本カ出兵シテ英國ト共

同ノ動作ニ出テラレサルヲ以テ万々斯ルコトナカル可ク又

政府トシテモ出来得ル限り事端ノ発生ヲ防止スル考ナリ露

国側ヨリノ出兵又ハ上海ニ於テ露国人カ盛ニ暗中飛躍シツ

ツアリトノ情報ハ信シ難シト述ヘタリ

北京、上海、天津、九江、廣東へ転電セリ

287 昭和2年1月31日 在中國芳沢公使より
幣原外務大臣宛(電報)

英租界問題に関する陳・オマリー間協定成立
の実否等につき英國公使との会談について

北京 1月31日後發

大臣、上海へ転電セリ

288 昭和2年2月2日 在漢口高尾總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

上海に英兵力集中しつつある間は漢口租界協
定に調印せずとの陳友仁の談話について

漢口 2月2日後發
本省 2月3日前着

*第八号

二月一日日本官陳友仁往訪ノ際英國側トノ交渉ニ関シ陳ノ述
フル處ニ依レハ
英國租界ニ關シテハ之ヲ回収ノ上元露國租界ノ如キ制度ヲ
採用シ第三特別区トスヘキ事ニ妥協纏リタルモ当地ニ於ケ
ル平和的交渉ニ拘ラス上海ニ於ケル英國側兵力集中ハ國民
政府ヲ脅威シツツアルモノト見ルヘク之ヲ其儘ニシテ右妥
協ニ署名スレハ民衆ノ反対ハ如何トモ致シ難キニ至ルヘク
且又國民政府ノ「ブレステジ」ヨリ考フルモ甚々面白カラ
サルヲ以テ本日「オメリ」ニ対シ右兵力ヲ撤退スルニ非
サレハ断シテ右ニ「サイン」シ得サル旨ヲ申入レ「オ」ハ

早速本国政府ニ請訓シタル筈ナリ自分ハ更ニ当地ノ形勢及

第一六三号

本使発在漢口總領事宛電報

第一七号

本省 2月1日後着

一月三十一日英公使ニ會見ノ際本使ハ漢口居留地問題ニ就
テハ陳友仁「オメリ」間ニ協定成立シタリト言フ説ト然
ラスト言フ説トノ二アリ何レカ真ナリヤト尋ネタル処只
今迄「オ」ヨリ接到シタル電報ニ依レハ協定ニ接近シ居ル
モ未タ協定ニ達シタルニアラスト答ヘタルニ付本使ハ「國
民政府以外ノ政府ト交渉スヘカラサルコト」上海ニ陸海軍
ヲ集中スルコトノ不可能ナルコトノ一点ハ陳カ漢口事件解
決ノ条件トシテ提出シタルモノナリヤト尋ネタルニ英國公
使ハ「オ」ノ報告ニ依レハ陳カ右二件ニ言及シタルニ相違
ナキモ敢テ条件ニアラスト答ヘタルニ付本使ハ然ラハ希望
位ノ虞ナリヤト述ヘタル処然リト答ヘタリ

本使ハ更ニ英國提出条件中ニハ專管居留地以外各國共同居
留地ニモ言及シタルコトナシト思ハルルカ如何ト尋ネタル
處同公使ハ共同居留地ハ各國ノ問題ニシテ英國カ共同居留
地ノ問題ニ言及シタルコト絶対ニ無之ト語リタリ

289 昭和2年2月(3)日 在漢口高尾總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

英國労働党宛の国民政府メッセージについて

別電 二月三日着在漢口高尾總領事より幣原外務大臣

宛第八四号

右メッセージ

漢口 本省 2月3日前着 発

第八三号
〔ハハ文書〕

往電

第八

陳友仁ハ約束ニ從ヒ本官帰館後大要別電第八四号訳文ノ通り英國労働党ニ送レル「メッセージ」写ヲ送リ越セリ原文郵送ス

北京へ転電セリ

(別電)

漢口 本省 2月3日前着 発

第八四号

国民政府ハ漢口事件ノミナラス支那ノ独立回復ニ関スル一切ノ問題ヲ平和的ニ處理セントス從テ英國政府ノ無謀ナル分子ヲ制御シ且支那人ノ敵愾心ヲ唆ルカ如キ同政府ノ決意並ニ行動ヲ翻ヘサシメントスル英國労働代表ト其方針相通ニ考へ居ラサル処ナリ

〔三〕国民政府ハ前記政策声明ノ結果トシテ英國兵力ノ集中即時停止又ハ緩和セラルヘキヲ信シ從テ斯ル威嚇且挑発的行為ヲ無視シ漢口事件ニ関スル平和交渉ヲ進メタリ

〔四〕一月二十九日外交部長ハ特ニ本兵力問題ヲ惹起シ右「オメリ」ニ対シ一月二十七日付英國カ提出セル條約上ノ権利改訂提議ハ不徹底並ニ不満足ナリト雖一条件トシテ即チ不必要且挑戦的ナル兵力ノ集中ニ依ル脅威ヨリ全然「フリー」ナル立場ニ於テ論議交渉シ得レハ右提案ヲ基礎トシ英支両國ノ不調ヲ解決センカ為交渉ヲ開始シテ差支ナキ旨回答シ又漢口事件ノ交渉モ同様ニ取扱フヘント雖外交部長ハ英國労働党ノ極メテ同情アル「メッセージ」ニ依リ兔ニ角此ノ交渉ハ続行スヘシト付言セリ

〔五〕漢口事件交渉ハ殆ト完了シ協定ニ「サイン」シ得ル時期ニ達セリ

〔六〕然ルニ今ヤ「支那遠征軍」ノ名ノ下ニ上海ニ集中シツツ

ス余ハ英支間ニ斯ル一般重大問題ヲ離レ漢口英租界事件ヲ英國及国民政府ノ自尊心ヲ満足シ得ル様解決セン事ヲ求メタルカ右解決ハ英國カ阿片戦争以来ノ大兵力ヲ上海方面ニ集中シ醜醜セル戦時氣分ヲ終熄セシムレハ直ニ為シ遂ケラ

力ヲ以テ占領スル事アル場合英國人ノ保護ヲ目的トストノ事ナルモ果シテ然リトセハ夫ハ余カ本日英國代表者ニナシタル声明(別紙添付ノ通り)ニ鑑ミ全ク無用ナリ但シ若シ此行動カ貪婪飽ク事ナキ英國政府ノ態度ヲ示スモノトセハ英國ノ極東ニ於ケル商業貿易ノ障害ハ労働党カ「トーリー」党ニ代ル場合ニ於テノミニ救濟セラレ得ヘシ

別紙声明

(一)一月十二日漢口英租界ノ将来ノ「ステータス」ニ關シ英支交渉開始以来上海地方ニ英國兵ノ集中始マリ其名目ハ支那側カ同地共同租界ヲ強力(脱)奪スヘキ場合英國人ヲ保護スルニ在リト伝ヘラル然ルニ等シク重大ナル利害ヲ有スル日本及米国ハ何等右様ノ手段ニ出ス

(二)国民政府ハ一月二十二日付「マニフィスト」ニ於テ同政府ハ条約其他付属問題ヲ平和的交渉並ニ協定ニ依リ解決スル署名セラル事トナリ実効ナカル可シ

(七)国民政府ハ右ノ圧迫除去セラル迄ハ漢口事件協定ニ「サイン」スル能ハス但シ右除去ハ「ナショナリスト」支那ニ及ホセル悪影響ニ付英國カ再考セハ何時ニテモ實行シ得ヘク又英國ノ目的真ノ平和ヲ求ムルニ在リトセハ貿易国タル英國ト「ナショナリスト」支那トノ将来ニ於ケル通商關係ヲ保障スヘキ様漢口事件ヲ満足ニ解決スル事敢テ困難ナラサル可シ

在支公使ヘ転電セリ

290 昭和2年2月3日
〔幣原外務大臣より
在米國松平大使宛(電報)〕

漢口事件後始末並びに英國第二次覺書に關する中英交渉経過について

本省 2月3日(起草)

漢口事件後始末並英國第二次覺書ニ關スル英支間交渉経過

大要左ノ通り

一、漢口事件善後措置ニ関シテハ一月十二日陳友仁ト英國參事官「オマレー」トノ間ニ交渉開始セラレタルモノ双方ノ主張懸隔シ一時物分レトナリシカ其後二十一日英國側ヨリ在支公使宛往電第五三号英國第二次覺書中ノ租界ニ関スル部分ヲ仄シタルモノノ如ク爾來交渉進捗シ最近ニ至リ漢口、九江ニ於ケル英租界ハ之ヲ特別区トシ漢口旧露國租界ノ例ニ倣ヒ外支共同ノ自治制ヲ施行スルコトトシテ協定殆ト成立ノ運トナリタル趣ナル處一方「オ」ハ二十七日陳ニ対シ前記覺書ヲ提出シタリ（但前文トシテ英國政府ハ国民政府ヨリ漢口、九江事件解決後ハ各地ニ於ケル居留地ノ「ステータス」ハ平和的交渉ヲ以テシ変更スヘキ旨ノ保障ヲ得ルヲ条件トシテ本件提案ヲ為サムトスルモノナル旨ヲ述へ且本文内容中海關ノ部分ヲ削除シ又領事裁判権、課税権等ニ關シ改訂増補セリ）右ニ對シ二十九日陳ハ英國側ニ新提案ハ決シテ満足スヘキモノニ非ルモ英國側ニシテイ何レノ租界及共同居留地ノ「ステータス」ニ付テモ国民政府以外ノ政府ト之カ変更ニ關シ何等交渉ヲ行ハサルヘキコト並回交渉解決迄決シテ武力ヲ以テ威嚇的態度ヲ示スヘカラサルコト

ノ二条件ヲ承認スルニ於テハ国民政府ハ右提案ノ審議ニ応スヘシトノ回答ヲ為シタリシカ翌三十日陳ハ突如英國政府カ大軍ヲ上海ニ集中シツツアル事実ヲ指摘シ此ノ？（マヤ）テ調印スルハ強制調印ノ誇ヲ免レバ從テ国民政府ハ右圧力除去セラル迄ハ前記協定ニ署名スル能ハスト主張シテ之ヲ拒絶シ且声明書ヲ發シテ右ノ理由ヲ明ニスルト共ニ今次交渉ノ經過大要ヲ英國労働党ニ電報シタリ

二、北京ニ於テハ一月二十一日在支英國公使ヨリ芳沢公使ニ對シ英國第二次覺書ニ關シ内話ノ次第アリ次テ二十六日日英仏伊四國公使会合ノ席上英國公使ハ更メテ右覺書写ヲ手交スルト共ニ説明スル所アリタルカ（仏伊両公使ハ英國公使ニ氣兼シタルモノカ何等意見ヲ述ヘス）英國公使ハ之ヲ翌二十七日張作霖ニ又二十八日顧維鈞ニ提出シタリ右覺書ノ内容ハ弗々新聞紙ニ漏洩シ北京ノ諸新聞ハ顧カ二十九日英國公使ニ對シ英國今次ノ提議ヲ徳トシ其内容ニ付早速具体的討議ニ入ランコトヲ申入レ且英國ノ出兵ニ對シ嚴重抗議（本件真相不明ナリ）シタル趣ヲ伝フルト共ニ右ニ關シ種々論議シ居ル處大体ニ於テ英覺書ハ必シモ満足ニ值セサルモ比較的進歩セル提案ナリト觀察シツツアルカ如

ク英國側亦巧妙ニ宣伝ニ力メ居レリ尤モ英國ノ出兵ニ対シテハ一般ニ反対ノ声頗ル高シ将又前記二十一日會議ノ際英國公使ハ芳沢公使ニ對シ英國側トシテハ天津旧獨塊租界ニ於ケル外人市政参与問題不満足ナルニ顧ミ先ツ右ニ付英國總領事ト地方官憲トノ間ニ reasonable arrangement ワ作ラシムルコトトスヘク夫レ迄ハ英國案ハ實行セラレサルモノナル旨ヲ支那側ニ申入ルル意向ナリト述ヘ又芳沢公使ヨリ若シ南方政府トノ交渉決裂シ北方トノ交渉ノミ進行スル場合北京政府ハ自ラ中央政府ト称シ居ルニ顧ミ今次覺書ニ依ル英國ノ権利放棄ハ南方ニ對シテモ効力ヲ發生スルモノニ非サルカト尋ネタルニ對シ然リト答ヘタル趣ナリ
英ヘ転電シ英ヲシテ在欧各大使ヘ転電セシメラレタシ

二月二日英國公使ニ會見ノ際漢口事件善後交渉決裂ニ就テハ「オメリ」ヲ呼戻スカ將又派遣セムトスル軍隊ヲ如何ニスルヤ等ノ質問ヲ為シタル處同公使ハ未タ充分考量ノ時間ナク且陳友仁声明ノ電報到達セサル為旁意見ヲ定ムル能ハサル次第ナルカ自分ノ差當リノ思付ニテハ若シ治安維持ヲ事實ニ於テ確保スル場合ニハ例ヘハ香港ニ全部ノ軍隊ヲ止ムルコトスルモ一策ナリト語リ居タリ但自分一己ノ思付ニ付貴公使ノ含ミ丈ケニ願フト語リタリ

292 昭和2年2月8日 在漢口高尾總領事より
幣原外務大臣宛（電報）
輸送中の英軍隊の措置確定すれば漢口英租界

協定に調印との陳友仁談話について

291 昭和2年2月4日 在中國芳澤公使より
幣原外務大臣宛（電報）
漢口事件善後交渉に關し英軍隊の香港上陸も
考慮と英公使内話について

北京 2月4日後発

本省 2月4日後着

第一八二号（極秘）

英國今次ノ出兵ハ仮令其ノ目的該租界ノ守備ニ在リトスルモ之カ為ニハ上海市外數哩ノ地点ヲ占領スルニ非サレハ其ノ目的ヲ達シ難ク然ル時ハ支那ノ主權ヲ侵スコトトナルヘク何カ故ニ居留民ノ保護ヲ国民政府ニ一任シ得スヤトテ從来ノ主張ヲ繰返シ（脱）ヲ交換シタルカ結局英國ハ目下輸送中ノ軍隊ヲ何レノ方面ヘカ「ダイバート」スルコトトナルヘク今日ニ於テハ国民政府トシテ英國ノ体面ヲ傷ケサル様如何ナル方法ニ依ルヘキヤヲ考慮中ナリ漢口租界事件ニ関シテハ兎ニ角双方和平解決ヲ欲スル次第ナレハ右方法サエ確定セハ調印スルニ至ルヘシト語レル趣ナリ

北京、上海、廣東へ転電シ南京、九江、長沙、宜昌へ暗送セリ

293 昭和2年2月10日 在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛（電報）

漢口英租界協定まもなく調印と英國公使談話について

北京 2月10日前發
本省 2月10日前着

293 昭和2年2月10日 在中國芳沢公使より
幣原外務大臣宛（電報）

第二〇一號

294 昭和2年2月20日 在漢口高尾總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

英派兵に抗議の上漢口英租界協定調印の意向

北京 2月10日前發
本省 2月10日前着

なる旨陳友仁談話について

漢口 本省 発
2月20日前着

第一〇九號
(1) 漢口英租界ニ關スル英支交渉ニ付テハ往電第一〇一號末段

二述ヘタル通ニシテ二月十二日陳友仁ハ英国外相ノ九日議會ニ於ケル声明（「オ」ヨリ陳ニ手交セルモノ）ニ対シ最

後ノ意見ヲ發表スルヲ避ケ且英國ノ必要ナル軍隊ノ派遣ニ關シテハ兎ニ角抗議シ度旨ヲ語リ居リシカ其ノ後ノ経過

ニ付二月十九日陳カ本官ニ内話セル處ニ依レハ「オメリ

ー」ト十四日会見ノ際自分ハ先ツ国民政府カ上海共同租界ヲ暴力ヲ以テ奪回スル意無キ旨ヲ文書ヲ以テ保障セシニ對

シ英國側カ派兵ニ關シ与ヘントスル保障ハ国民政府ニ取り不満足ナルヲ以テ現在既ニ上海ニ上陸セル「パンジャブ」

ニ付テハ之ヲ問ハサルモ香港ヨリ回航中ノ印度兵團ハ同地迄返サシメラレタシト要求セシニ「オ」ハ自己ノ權限外

トシテ斯ル保障ヲ与フルヲ拒絶セリ
然ルニ自分等トシテハ既ニ英國派兵ノ目的ニ關シ大体ノ見迄返サシメラレタシト要求セシニ「オ」ハ自己ノ權限外トシテ斯ル保障ヲ与フルヲ拒絶セリ

當付キタルノミナラス之ヲ国民政府ニ於テ放置スル事ト假然ルニ自分等トシテハ既ニ英國派兵ノ目的ニ關シ大体ノ見

往電第二〇〇号ノ談話ヲ済マシタル後本使ハ「オメリー」陳友仁間ノ会談ニ就テハ昨日貴公使談話ノ次第アルモ新聞電報等ニ顧ミ貴公使談話以上ニ重要ナル意味アルモノノ如シト述ヘタル處同公使ハ然リ昨日迄ノ事態ハ一向重要ナラサリシモ其ノ後ノ來電ニ依レハ陳友仁側ヨリ調印ノ希望ヲ申出テタルモノノ如ク右ハ南軍部内ニ重大ナル分裂アルニ依ルモノノ如ク尤モ此情報ハ未タ確メタル次第ニアラサルモ陳友仁ノ方ヨリ折レテ出タルニ顧ミ或ハ事實ナルヤモ測リ難ク右情報ニ依レハ蔣介石及穩健派ハ相提携シテ過激派ヨリ分立シ「ガロン」將軍モ拘留セラレタリトノコトナリ陳ハ居留地ニ關スル協定案ニ直ニ調印スヘキ形勢ナルモ該協定案ノ内ニハ上海ニ於テ暴動ヲ起サヌ又今後「アジテーション」ヲ為サストノ保障等ヲモ含ミ居レル為未タ調印ニ至ラサルモ英國政府ヨリ承認ヲ得次第陳トノ談話纏マルヘク多分間モ無ク調印ニ至ルヘシト信スト語リタリ
上海、漢口、九江へ転電セリ

但シ国民政府ハ上海共同租界警察力ノ為ニ必要トスル以上ニ英國ノミカ勝手ニ軍隊ヲ差向ケタルコトニ対シ抗議スヘシ只右抗議ハ未タ上海迄進出シ得サル革命軍ノ現状ニ鑑ミニ支那ノ主權ヲ侵犯スル口実ヲ以テスル通一遍ノ形式的抗議ニ止メ之以上ノ処置如何ハ現在ニ於テハ孫伝芳ノ手ニ放置スヘキモ一旦革命軍カ上海地方ヲ占領セル場合ハ之ト英國兵トノ対峙ハ或ハ更ニ acute ナル形式ニ於テ此ノ問題ノ解決ヲ計ラサルヲ得サルニ至ルヘキヤモ知レスト付言シタルニ「オ」ハ其權限極メテ限定セラレタルモノノ如ク即答ヲ与ヘス更ニ種々問答ヲ重ネタル後本國政府ニ請訓スナリ尚英國派兵ニ対シ当地方国民党系ノ反対運動ノ鎮压ニ關シテハ陳ハ一方ナラサル苦心ヲ払ヒツツアル旨ヲ語リ居

在支公使、上海・転電・九江・粵東、南京・鐵道ヤニ
Hankow.

295 昭和2年2月20日 在漢口高尾總領事ハニ
英外務大臣宛(電報)

漢口英租界に關する協定ノハシテ

本 略 11月十九日漢口英租界に關する協定等の交換

今文

漢口 2月20日後発
本省 2月21日着

* 第1111號

(〔九四文書〕) 〇九号及第111号ハ関シ

漢口租界問題英支協定11月十九日夜調印セハノタニ由ナリ
在支公使、上海、九江・転電ヤリ

(本 略)

Papers respecting the Agreements relative
to the British Concessions at Hankow and
Kiukiang.

No. 1.

The proper British authorities will summon the annual general meeting of ratepayers in accordance with the Land Regulations on the 15th March. The British municipality will thereupon be dissolved and the administration of the concession area will be formally handed over to a new Chinese municipality on the 15th March, the policing of the concession and the management of the public works and sanitation will be conducted by the Chinese authorities now in charge thereof.

The Nationalist Government will upon the dissolution of the British Council forthwith set up a special Chinese municipality, modelled on that of the Special Administrative District, for the administration of the concession area under regulations which will be communicated to His Britannic Majesty's Minister by the

Minister for Foreign Affairs of the Nationalist Government. These regulations will remain in force until such time as arrangements have been negotiated for the amalgamation of the five Hankow concessions and former concessions into one unified municipal district.

Dated this 19th day of February, 1927.

CHEN YU-JEN, For His Britannic Major
Minister for Foreign Affairs, esty's Minister,
Nationalist Government. OWEN O'MALLEY.

No. 2.

Agreement relative to the British Concession at Kiukiang.

ment were suffered by British subjects during the recent disturbances at Kiukiang, such losses will be compensated by the Nationalist Government.

Dated this 20th day of February, 1927.

CHEN YU-JEN, For His Britannic Major
Minister for Foreign Affairs, esty's Minister,
Nationalist Government. OWEN O'MALLEY.

No. 3.

Mr. Chen to Sir M. Lampson.
Sir,
February 19, 1927.

I HAVE the honour to communicate to you the regulations which the Nationalist Government will promulgate for the administration of the British concession area at Hankow.

I avail myself of this opportunity to renew to you the assurance of my highest consideration.

CHEN YU-JEN,
Minister for Foreign Affairs.

No. 4.

Sir M. Lampson to Mr. Chen.

Hankow, February 19, 1927.

I HAVE the honour to assure you that the British authorities concerned will do all that they can to implement and ensure the successful operation of the agreement signed to-day relative to the British concession area at Hankow, and that as far as the British authorities are concerned Chinese citizens will enjoy and be entitled to the same rights as British subjects in the said area.

I have, &c.

(For the Minister),

OWEN O'MALLEY.

I HAVE the honour to acknowledge the receipt of your letter of to-day's date in which you assure me that the British authorities concerned will do all that lies in their power to implement and ensure the successful operation of the agreement signed to-day relative to the British concession area at Hankow, and that as far as the British authorities are concerned Chinese citizens will enjoy and be entitled to the same rights as British subjects in the said area.

I have the honour to assure you in return that the Chinese authorities for their part will likewise do their utmost to implement and ensure the successful operation of the agreement in question and that so far as they are concerned there will be no discrimination against British interests in the administration of the new district.

I avail, &c.

CHEN YU-JEN,

Minister of Foreign Affairs.

Sir,

Mr. Chen to Sir M. Lampson.

February 19, 1927.

Sir,

Mr. Chen to Sir M. Lampson.

February 19, 1927.

Sir,

Statement.

THE Nationalist Government take note of the statement made by Sir Austen Chamberlain, the British Secretary of State for Foreign Affairs, in the House of Commons on the 10th February.

The modification in the original plan for the concentration of British forces at Shanghai announced by him is regarded by the Nationalist Government as a concession which now makes it possible to proceed to the conclusion and signing of an agreement relative to the British concession area at Hankow.

As, however, the landing at Shanghai of British troops—even in the reduced numbers and for the strictly limited purpose stated by the British Secretary of State for Foreign Affairs—is without legal justification,

the Nationalist Government have to protest against

the landing and presence of such British troops in the International Settlement at Shanghai.

February 19, 1927.

No. 7.

Declaration.

THE Nationalist Government have to declare that the arrangement made respecting the status of the area hitherto known as the British concession at Hankow has been concluded by them with special reference to the facts of the new *status quo* in the said area, and is not intended by them to serve as precedent for the settlement of the future status of any British or other concessions elsewhere in China.

February 19, 1927.

No. 8.

Declaration.

REPORTS reaching the Nationalist Government from many quarters appear to make a restatement of Na-

nationalist policy regarding concessions and international settlements necessary and timely in order to avoid misapprehension and prevent needless apprehension and fear.

In the manifesto of the 22nd January the Nationalist

Government declared their intention and their immediate readiness to have all questions outstanding between Nationalist China and the foreign Powers settled by negotiation and agreement. This implicitly applied, and it was intended so to apply, to changes in the status of all concessions and all international settlements in China.

This necessarily means that the policy of the Nationalist Government is not to use force or to countenance the use of force to effect changes in the status of any or all concessions and international settlements.

The Nationalist Government have to lay it down that changes in the status of concessions and international settlements wherever situate in China are of

such vital and national importance that no local or other Chinese authorities save and except the Nationalist Government can negotiate with the foreign Powers settled by negotiation and agreement. This implicitly applied, and it was intended so to apply, to changes in the status of all concessions and all international settlements in China.

February 19, 1927.

No. 9.

Aide-mémoire.

Mr. O'Malley is instructed to take note of Mr. Chen's declaration that—

"In the manifesto of the 22nd January, the Nationalist Government declared their intention and their immediate readiness to have all questions outstanding between Nationalist China and the foreign Powers settled by negotiation and agreement. This implicitly applied, and it was intended so to apply, to changes in the status of all concessions and all international settlements in China.

"This necessarily means that the policy of the

Nationalist Government is not to use force or to

countenance the use of force to effect changes in the status of any or all concessions and international settlements.

"The Nationalist Government have to lay it down that changes in the status of concessions and international settlements wherever situate in China are of such vital and national importance and that no

local or other Chinese authorities save and except the Nationalist Government can negotiate with the foreign Powers concerned in respect thereof."

As regards the last paragraph of the above declaration, Mr. O'Malley is instructed to declare that His Majesty's Government cannot bind themselves to refuse to enter into negotiations with Chinese officials in any part of China with regard to matters arising in areas where such officials are actually exercising *de facto* authority.

Hankow, February 19, 1927.

編 沢 本文書は英外務省より議会宛報告書 China No.3

(1927)より採録

296 昭和2年2月21日 在漢口高尾總領事より
路原外務大臣宛(電報)

漢口英租界に置かれた英協販肉公司の競友

との競争

漢口 発

本省 2月21日前

※第111号(解説)

(1) 1月十六日十七日ハ漢口川瓦リ当地主ナル漢守新聞紙上に

外交部發表シテ英國租界事件交渉經過ナルモノノ掲載セラ
其ノ要旨ハ大体ニ於テ既ニ報告済ノ通リナルモ其末段ニ
英文協定ノ内容ナリムハト記ス处ニ依ル
工英國當局ハ土地規則ニ準拠シ三月十五日納稅者大会ヲ召

集ハ英租界工部局ヲ即時解散ノ上其ノ行政權ヲ支那側ノ
新施政機關ニ引渡スモノ但警察土木衛生事務ハ右引渡以
前ニ雖現在ノ通り支那側主管當局ニ於テ弁理スルモノ
工英國工部局解散後国民政府ハ現行ノ特別区施政条例ニ準
據ノハ特別支那施政機關ノ組織ノ其章程ニ基キ租界ノ管

410
問題
北伐と
租界

(3) 右ノ章程ハ国民政府外交部長ヨリ英國公使ニ通知シ漢口ニ於ケル五租界カ一区域ニ合併セラル弁法力商議決定ヲ經サル以前ニ在リテハ引継キ有効タルヘキコト

ト言フニ在リ他ノ事項ハ免ニ角末段ノ一項ハ甚夕解シ難キ筋合ニシテ五租界トアラハ日本租界ヲモ包含スヘク

少クトモ本官ニ於テ何等承知セサル我租界ノ性質ニ闕シ当地ニ於ケル英支両国当局者間ノ協定ニ引用セラルヘキモノトセハ一応其理由ヲ質シ置クノ必要ヲ認メ二月十九日陳友仁ヲ訪問シ右ノ新聞發表ハ事実ナリヤト尋ネタルニ陳ハ大体ニ於テ誤ナキ旨ヲ答ヘタルニ依リ本官ハ英支協定ナルモノノ他ノ事項ハ問フ処ニアラサルモ末段ノ五租界合併云々トハ如何ナル事情ナリヤ本官ノ参考迄ニ説明アリタキ旨求メタルニ陳ハ右協定草案ノ内容ニ就テハ一日前ヨリ貴官ノ参考迄ニ進ムテ説明シタキ心組ナリシモ病氣ノ為其意ヲ果ササリシハ遺憾ナリ其ノ内公文ノ写ヲ送付スヘシト前提シテ語ル処ヲ総合スルニ左ノ通り

右ノ協定ハ未タ「サイン」セラレサルモ大体ノ新聞發表ノ通リニテ即チ英國ノ体面ヲ重ンシ名義上一旦租界ヲ英國ニノナリト云ヘルニ付本官ハ
 英支間ニ斯ル協定ヲナスニ至リタル動機ニ付テハ甚夕解シ難キモノアリ即チ右様ノ風説アリタル事ハ本官ニ於テ曩ニ伝聞セル處ニシテ當時貴官ニ事実ノ有無ヲ質問シタル處貴官ハ「左様ノ話アリタルモ双方ヨリ何等正式ニ提議シタル事ナシ自分トシテハ右ハ實際上第二ノ上海共同租界ヲ實現スル結果ヲ招ク惧アリト思考スルニ依リ反対ナリ」ト云ハレタル事モアリ(二八四文書)然ルニ今ニ於テ斯ル協定ヲ見ルモノトセハ其間何等カ特殊ノ事情存スル次第ナリヤ或ハ英國側ニ於テ自國ノ体面ヲ保持センカ為メ交換的

ニ此種ノ提議ヲナシタルモノニ非サルカ事苟クモ第三國ノ権利ヲ引用スルニ至リテハ相當ノ理由アル可キ筈ナリト述ヘタルニ陳ハ暫ク記憶ヲ迎リタシトテ沈黙シタル後笑ニ紛ラセテ明答ヲ避ケ万事ハ御推察ニ任ス可キカ

英國側ノ体面モアルコトナルヘント言葉ヲ濁シ次イテ曰ク

当地各租界ヲ通シ外支共同管理ノ下ニ一特別市ヲ設置スル

案ニ付テハ自分カ曾テ反対ノ意見ヲ洩シタルコトアルハ貴説ノ通ナリ但シ右ノ理由ハ租界ノ「ステータス」ヲ根本的ニ変更スルコトナク單ニ支那人ヲシテ市政ニ参与セシムル

特別区(元露國租界)暫行章程ニ準シ新施政局長ハ支那人トシ国民政府之ヲ任命シ董事会ハ外支人各三名ノ委員ヨリ組織スヘク外国人ノ参政權ヲ認ムルモ結局絶對多数ヲ占ムルノミナラス施政ニ関スル一切ノ章程ハ国民政府ヨリ公布スル筈ナレハ名実共ニ第三特別区トナル次第ナリ

元來今次ノ英支交渉ニ於ケル自分ノ根本觀念ハ不平等條約ヨリ脱却セントスルニアリ其實行方トシテハ王正廷ノ唱フルカ如ク一方的声明ノ方法モアルヘキモ自分ハ寧ロ外交手段ニ依リ取極ヲナシ一方支那ノ主權ヲ回復保全スル為其取

極ノ骨子タル内容ハ支那側ノ発布スヘキ法令中ニ規定スル手段ヲ採フモノナリ然レトモ此趣旨ヲ徹底的ニ実行セハ英

租界居留民ノ享有スヘキ権利ハ理論上支那側カ任意ニ制定シ且変更スヘキ章程ニ依リ絶ヘス影響セラレ從テ實質上何

マール結果ヲ招ク可キヲ以テ之カ弁法トシテ右新章程ハ英國公使ニ通告スルト同時当分支那側ニ於テ之ヲ任意ニ(脱)

頻繁ニ変更セサランカ為當地各租界ヲ合併シテ特別区トナスヘキ時期ニ至ル迄引続キ有効ナル旨協定セントスルモノミニテハ仮令支那人カ多數ヲ占ムル制度ナリト仮定スルモ租界制度ナルモノカ絶対ニ不都合ナリトスル国民党ノ立前トシテハ之ヲ容認致シ難キヲ以テナリ然ルニ當地英租界ニ關シテハ元來国民政府カ予メ目論見テ之カ回収ヲ實現スル為ニ三事件ヲ勃發セシメタルニ非ス從テ当初ハ必シモ之ヲ直ニ回収スル意思ナカリシモ今ヤ之ヲ現実ニ回収スルニ至リ其ノ回収後ニ於テ外国人ニ或ル程度ノ參政權ヲ支那側ヨリ付与ストセハ之ハ自分等年来ノ主張ヲ貫徹スルト同時ニ現在外国人ノ有スル利益ヲ保護スル目的ヲモ或ハヨリ有効ニ達シ得ヘシ

⁽⁶⁾ 本来各地ノ各国及共同租界ヲ完全ニ支那ニ回収スヘキコトハ国民政府終局ノ目的ナレトモ一躍直ニ此階梯ニ達スヘシト考フルハ余リニ現実ノ國際關係ヲ顧ミサル論ナリ依テ此種々ナル事實問題ヨリ顧慮シタル結果漢口ニ於テハ結局武漢三鎮ト併立シテ五租界ヲ回収ノ上此等ヲ合併シタル一特別市区ヲ設ケ英本国ノ例ニ倣ヒ municipal corporation act ノ下ニ自治行政ヲ為サシムル考ナルモ其過渡期ニ於テハ外国人ノ參政權ヲ認メ利害ノ調節ヲ計ラムトスルニ出テタル次第ナリ英支協定中ニ斯ル規定ヲ設ケタリトテ今直ニ

日本租界ノ「ステータス」ヲ変セムトスルニアラサルコトハ勿論ノ儀ニ付誤解ナキ様希望スルモ何レハ平和的手段ニ依リ何等弁法ヲ協議スヘク提議スルコトナルヘシト言ヘリ

北京へ転電シ天津、上海、九江、廣東へ暗送セリ

297 昭和2年2月22日 在中国芳沢公使より
幣原外務大臣宛（電報）

漢口英租界に関する中英協定中の第三項に
き英國公使の見解について

北京 2月22日後発
本省 2月22日後着
※ 第二二一七号

在漢口總領事発大臣宛電報第111号に關シ

(一九六文書)
二月二十一日英國公使ニ會見シ英支協定三ノ内容ヲ訳読シタル處同公使ハ其通りナリト答へタルニ付本使ハ右ニシテ事実トセハ我方ニ於テモ恰モ租界還付ヲ覺悟シ居ルモノノ如ク看做サレ愉快ナルコトニアラスト述ヘタル處同公使ハ実ハ十九日調印ノ旨二十日簡単ナル電報ニ接シタルノミニテ続イテ來ルヘキ長文ノ電報ハ未タ接到セサルモ數日前落

手シタル協約案ノ内容ヘ其通りナリトテ右協約案ヲ取寄セ為念本使ノ面前ニテ朗誦シタル上実ハ最初ノ有効期間ヲ十ヶ年トナサントシタルモ協議成立セサル為右ノ如キ協定ヲ見タル次第ナルカ全ク一定ノ期間内変更ヲ加ヘサルコトヲ保障セムカ為ノ目的ニ出テタルニ外ナラスシテ日本側ニ於テ不愉快ニ感セラルハ尤モノ次第ナリ自分一己トシテハ今回ノ協定ニ感服セス殊ニ其規定カ余リニ微細ノ点ニ瓦リ居ル等ハ如何カト思ハル次第ナルモ「オメリリー」ニ於テ其ノ付与セラレタル一般的極限ニ基キ調印シタルモノニテ自分セ致方ナシト思考シ居ル次第ナリ猶内密ノ談ナルカ昨日（日曜日）別荘ニ在リテ考慮シタル結果上海ニ於ケル現下ノ事態ニ顧ミ南方政府ヨリ暴力ニ対スル保障ヲ取付ケサリシヨトハ遺憾ナリト電報シ置キタリト弁疏シタリ

漢口、上海へ転電セリ

298 昭和2年2月23日 在漢口高尾總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

租界に関する国民政府の声明書発表について

別電 二月二十一日付在漢口高尾總領事より幣原外務大臣宛第一一七号

租界に関する国民政府声明

漢口 発

本省 2月23日前着

※ 第一一六号

租界ノ「ステータス」変更ニ關スル国民政府ノ方針ハ累次電報ノ通ナル處同政府ハ更ニ二月二十一日別電第一一七号ノ通声明書ヲ發表セリ

No. 117
Report reaching Nationalist Government from many quarters appear to make statement a Nationalist policy regarding concessions and international settlements necessary and timely in order to avoid misapprehension and prevent needless apprehension and fear.

In manifesto 22nd January the Nationalist Government declared their intention and their immediate readiness to have all questions outstanding between Nationalist China and the Foreign Powers settled by negotiation and agreement.

This implicitly applied and intended. So to apply changes in status all concessions international settlements China.

This necessarily means that policy Nationalist Government is not use force or countenance use force to effect changes in status any or all concessions international settlements.

Nationalist Government have lay down that changes

シツツアリ

在支公使へ転電セリ

(付記)

漢口租界警備問題

第一章 英租界暴動事件後ニ於ケル警備措置

昭和二年一月初漢口英租界暴動事件ニ続イテ九江ニ於テモ英租界回収ヲ目的トスル騒擾起リ當時英國側ノ警備手薄ナルト無抵抗主義ニ出テタル為メ国民政府側ノ謀略ハ予想外ノ成功ヲ示シ同政府ノ自負心ヲ挑発シタルコト甚シキト同時ニ長江一帯ニ於テ外国人ニ対スル輕侮ノ念頓ニ昂マルノ形勢ヲ呈シタリ

帝国政府ニ於テハ國民軍ノ長江進出以来同軍ニ依ル各種ノ不法行為ニ遭会シ又國民政府ノ指導ニ依ル労働者ノ態度悪化ニ依リ一再ナラス惱マサレ来ルモ夙ニ隱忍自重ノ態度ヲ以テ臨ミ来リタル次第ナルモ将来漢口方面ノ事態ニシテ苟モ帝國ノ威信並條約上ノ権利ヲ傷クルカ如キコトアル場合ニハ儼トシテ其理非ヲ糾明スルコト機宜ニ適スヘク例ヘハ國民政府側ニ於テ英租界事件ノ余勢ニ依リ我カ租界奪回ヲ

試ミルコト無キヲ保セサルモ其場合英國ノ如ク租界ヲ漫然支那軍隊並ニ警察ニ委棄スルカ如キハ帝國政府ノ傲ヒ難キ所ナルヲ以テ万一國民政府カ群衆ヲ煽動シテ帝國租界ノ回収ヲ企図スルカ如キ事實ヲ生シタル場合ヲ想像シテ具体的対策ヲ講シ置クノ必要ヲ認メ慎重考量ノ結果

(一)漢口地方ノ政情ニ鑑ミ日支人間ニ不祥事ノ發生ヲ予防スル為我總領事ヲシテ同地方治安維持ニ関シ支那側責任者ト此際特ニ密接ナル連絡ヲ取リ支那側ヲシテ之カ予防措置ヲ講セシメ万一支那官民ニ於テ英租界回収ノ経験ニ依

リ帝國租界ヲ輕視シ租界ノ靜謐ヲ害スルカ如キ盲動ヲ為ス場合ニハ我方ニ於テハ断乎タル処置ヲ取ルノ決意アルコトヲ國民政府幹部ヲシテ感得セシメ置クコト

(二)同地方ニ群衆運動起リ我カ租界ノ防衛ヲ必要トスル場合ニハ

(i)租界境域路面ノ警戒ハ要スレハ之ヲ支那官憲ニ委シ差

支ナキモ

(ii)我租界内ハ專ラ領事館警察及陸戰隊ヲシテ居留民保護ノ任ニ就カシムヘク此場合ニ於テハ警察陸戰隊共居留民保護ヲ唯一ノ目標トシ特ニ婦女子ハ領事ノ裁量ニ依

リ安全地ニ移転セシメ租界外ノ暴徒ニ対シテハ支那側

責任者ニ委任スルコト

(三)支那側責任者カ我居留民保護ノ誠意又ハ能力ヲ欠クカ為暴動力我租界内ニ乱入シ事態特ニ之ヲ必要トスル場合ニハ先ツ在留民ヲ帝國軍艦若クハ商船ニ收容スヘク同時ニ我租界外ニ散在スル居留民ヲモ適宜帝國艦船ニ引揚ケシム此場合ニ於テモ我方ハ暴徒ニ対シ可成对抗的措置ニ出ツルコトナク努メテ慎重ノ態度ヲ持スルコト

於テ遺算無キヲ期セシメタリ

右ノ結果漢口帝國租界ニ対シテハ直チニ予期セラレタル不祥事件ノ發生ヲ見サリシモ英租界事件以来昂進セル群衆ノ外国人ニ対スル輕侮心ハ益々增長シ共産不穩分子ノ煽動ニ依リ遂ニ四月三日ノ我租界暴動事件ヲ惹起スルニ至レリ(四三事件ニ於ケル防備措置ニ付テハ別卷「〔編注〕事項六の付参照漢口四三事件」ノ項参照)

第二章 四三事件後ニ於ケル租界警備問題

昭和二年四月三日漢口日本租界ニ於テ暴動事件發生スルヤ高尾總領事ハ海軍側ト協議ノ上不取敢陸戰隊二百名ヲ揚陸シ暴徒ヲ日本租界外ニ擊退スルト共ニ邦人保護ニ当ラシメ翌日更ニ陸戰隊員ヲ三百十名ニ増加シ租界内外ノ交通ヲ遮断シ其後陸戰隊員數ヲ五百十一名ニ増加シ四月二十三日租界防備線ヲ外方ニ拡張シ鐵条網ヲ租界周囲全部三展張シ爾來事態ノ緩急ニ応シ陸戰隊員數ヲ適宜増減シテ引続キ租界警備ニ当ラシメタリ

然ルニ前記暴動事件ト共ニ我カ總領事館勤務ノ支那人巡捕ハ全部其ノ職務ヲ放棄シテ逃亡スルニ至レルヲ以テ高尾總領事ハ他日陸戰隊撤退ノ場合ニ於ケル我租界ノ警備ノ必要等ノ方針ヲ決定シ一月十二日及十四日之ヲ在漢口高尾總領事ニ電訓シ時局ニ處スル防衛及居留民保護ニ關スル措置ニ

ヲモ考慮シ応急ノ処置トシテ外務省巡查五十名ヲ臨時増員スルカ或ハ陸海軍滿期兵中ヨリ臨時雇員トシテ五十名ヲ選抜派遣スルカ或ハ海軍除隊兵中ヨリ漢口ニ於テ臨時警察補助員雇入ルルカ何レカノ方法ニ依リ警備ヲ充実セシムルノ案票請スルト共ニ海軍滿期兵中ヨリ警察官補助員五十名臨時雇入方遣外艦隊司令官ニ対シ非公式ニ依頼セリ

今次動乱ニ於テ支那人巡捕カ其ノ任ニ堪ヘサルヲ示シタルハ独リ漢口ニ止マラス長江筋各地ニ於テモ苦キ経験ヲ嘗メタルニ鑑ミ支那全般ニ於ケル支那人巡捕ヲ一律廃止シテ邦人巡查ヲ以テ之ニ代フルノ必要ヲ認メ昭和三年度予算中ニモ之ヲ計上シ支那人巡捕一律廃止ノ計画ヲ進メタリ然ルニ漢口ニ於テハ其後事態漸次安定シ永ク四三事件當時ノ租界防備ヲ存置スルノ必要無キノミナラス揚陸中ノ陸戦隊モ四三事件ニ伴フ一時的ノ措置ニシテ早晚租界ノ警察行政ヲ復旧セサル可ラス且陸戦隊服務中ト雖モ租界ノ警察事務ハ全部之ニ帰属セシメ得サル事情アリ急速警察力ノ充実ヲ計ル

ノ必要ニ迫リ居タル事情ニ鑑ミ前記予算成立ニ至ル迄ノ機宜ノ措置トシテ曩ニ高尾總領事ノ非公式依頼ニ基キ海軍省ニ於テ既ニ各鎮守府ニ命令シ選抜ヲ了セル昭和二年五月末

ロンドン 1月13日後発
本 省 1月14日後着

第一〇号

(1) 十三日本使英外相ヲ往訪シ先ツ本使ヨリ前回会談ノ時ヨリ支那ノ時局ハ益々悪化シ漢口今日ノ事態ヲ生スルニ至リタル處昨日閣議開催サレタル趣ナルカ此ノ先如何ナル措置ニ出テントスルヤト尋ネタルニ外相ハ上海カ漢口ノ二ノ舞ヲ演スルハ忍ヒサル處ナルカ現場ニ於ケル海兵義勇兵ノミニテハ到底間ニ合ハスト考へ居レルモ折柄十一日「チレー」ヨリ英國大使館武官ト日本參謀本部諜報部長トノ会談ニ於

テ同部長ハ上海ノ防御ニ若干ノ兵力ヲ出スコト必要トナルヘキニ日英両国ニテ話合ヲナシテハ如何ト述ヘタル趣電報シ来レリ之ニ対シ自分ハ右部長ノ談ニシテ日本政府ノauthorization ヲ得居ルモノナルニ於テハ英國トシテモ喜ンテ武官ニ authorization ヲ与ヘ当地ニ於テモ日本武官ト陸軍省ト話合ヲナスコトニ異存ナキモ果シテ右カ日本政府ノ authorize セル談ナリヤ聞質スヘキ旨電訓シ置ケリ何レ其ノ内何等回電アルヘシト述ヘ尚差当リノ問題トシテハ「オメリイ」ノ漢口行ナルカ右ハ無論租界取戻シノ目的ニ

満期除隊兵中ヨリ優良者五十名ヲ警察補助員トシテ採用シ昭和三年度予算成立ノ上ハ現地ニ於テ試験ノ上追々巡査ニ任命スルノ方針ヲ以テ右ニ要スル費用六三、二六七円ヲ応急警備費トシテ第二予備金中ヨリ支出スルコトトナレリ斯クシテ九月二十日海軍省ニ於テ前掲警察補助員ノ身体検査ヲ了シ合格者四十八名（欠員二名ハ其後直チニ補欠）ハ十月十日漢口ニ到着セリ会々漢口ノ事情ハ差当リ危険ナキ状態ニ在リタルヲ以テ高尾總領事ハ海軍側ト協議ノ上十月八日ヨリ租界一切ノ防備撤去ニ着手シ租界内外ノ交通ヲ自由ニシタルカ右警察補助員ニ対シテハ直ニ基礎的実地訓練ヲ開始シ其ノ配備ニ就カシメ得ル迄ノ間陸戦隊ハ哨兵ヲ撤退シ巡邏兵ヲ巡行セシメ租界ノ治安維持ニ任シタルカ警備員ハ十一月一日ヨリ愈々其ノ配備ニ就キ極メテ良好ナル成績ヲ挙ケ居留邦人ノ信頼ヲ博シツツアリ

(2) 上 海
301 昭和2年1月13日 在英國松井大使より
整原外務大臣宛（電報）

チエンバレン英外相が上海の防備に日本の兵力を必要とする旨談話について

シテ目下其ノ報告ヲ待チ居ル處ナルカ未タ回答ナシ尤モ取戻シト云フモ再ヒ軍艦兵力ヲ使用シ力ヲ以テ奪回スルカ如キハ全然感心セサル所ナリト云ヒ更ニ「チレー」ヨリノ返事アル迄ハ友邦ニモ前述ノ報道ハ之ヲ洩ササルモ若シ日本ニシテ出兵ニ同意セハ米仏ニ話ス必要アリ英國トシテハ香港ニ目下一大隊ノ兵アリ尚別ニ一大隊ヲ同地ニ向ハシメ又米國ニ於テ馬尼刺ヨリ海兵三百ヲ送ルモ右ノ兵力ヲ以テハ尚到底不足ナルヲ免レス現場ニ近キ日本ノ兵力ヲ必要トスル次第ナリト説キタリ

右ニ対シ本使ハ此ノ際陸軍ヲ上海ニ上陸サスコトハ支那全国ニ及ホス重大ナル結果ヲ考慮セサルヘカラス殊ニ今日南北ノ争未タ何レノ勝利ニ帰スルヤモ決セス果シテ上海ノ防御ノ為陸兵ノ上陸ヲ絶対ニ必要トスル事態ニ立至ルヘキヤ未タ明白ナラス勿論各国カ上海防衛ノ決心ヲ定ムレハ廣東軍之ニ手ヲ触ルルヲ控フヘキモ陸兵上陸ハ其ノ結果重大ナルヘキニ鑑ミ余程慎重ノ考慮ヲ遂ケサルヘカラサルノミナラス日本トシテハ支那ノ南北ヲ通シ重大ナル利害ヲ有スルコトニモアリ武官ノ話ハ如何ナルモノニヤトテ多少疑ノ余地ヲ残シ置ケリ